# 男女共同参画に関する意識調査

## 報　告　書

平成２０年１月

企画政策部　企画調整課

# 調 査 の 概 要

## １．調査の目的

男女共同参画に関する市民の意識を把握するとともに前々回調査（平成７年実施）からの変化や国・県との比較などの分析結果をもとに、「第３次男女共同参画推進プラン」の検証・見直し及び今後の施策展開の基礎資料とするものです。

## ２．調査の方法

⑴　調査対象　　会津若松市在住の 20 歳以上の男女

⑵　標 本 数　　2000 人

⑶　抽出方法　　住民基本台帳より層化二段無作為抽出
　　（層化二段：男女、年齢）

⑷　調査方法　　郵送法（配布・回収とも郵送）による自記式の意識調査

⑸　調査期間　　平成 19 年 7 月 20 日（金）～8 月 10 日（金）

## ３．回収結果

| | |
|---|---|
| 標本数 | ２，０００人 |
| 回収数 | ７１５人 |
| 回収率 | ３５．８％ |

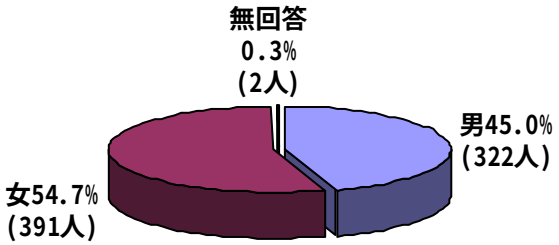
# Ⅰ　回答者の属性

回答者の構成を男女別に見ると、男性 45.0%に対し女性は 54.7%で、女性の構成比が高くなっている。

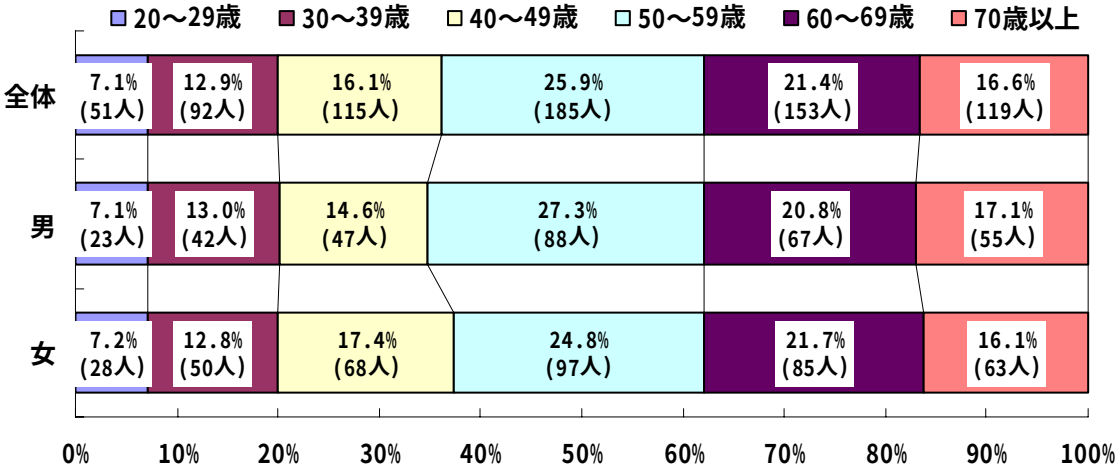
年齢別では、50 代（25.9%）の構成比が最も高く、次いで、60 代（21.4%）、70 代以上（16.6%）であり、次に 40 代（16.1%）が僅差で続いている。

職業別に見ると、「勤め人」（47.0%）の構成比が最も高く、次いで「無職」が 34.7%、自営業が 16.6%となっている。

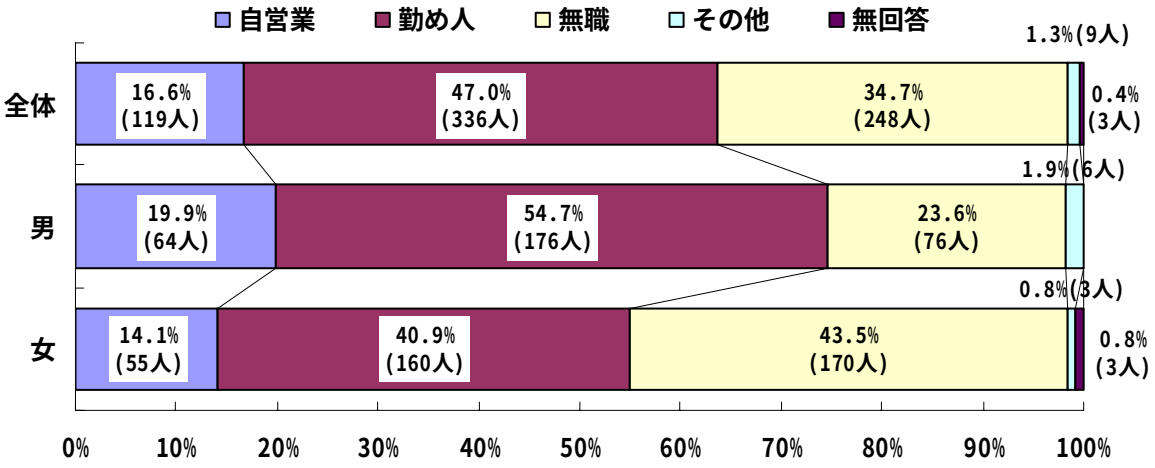
## 問１　性別




## 問２　年齢




## 問３　職業



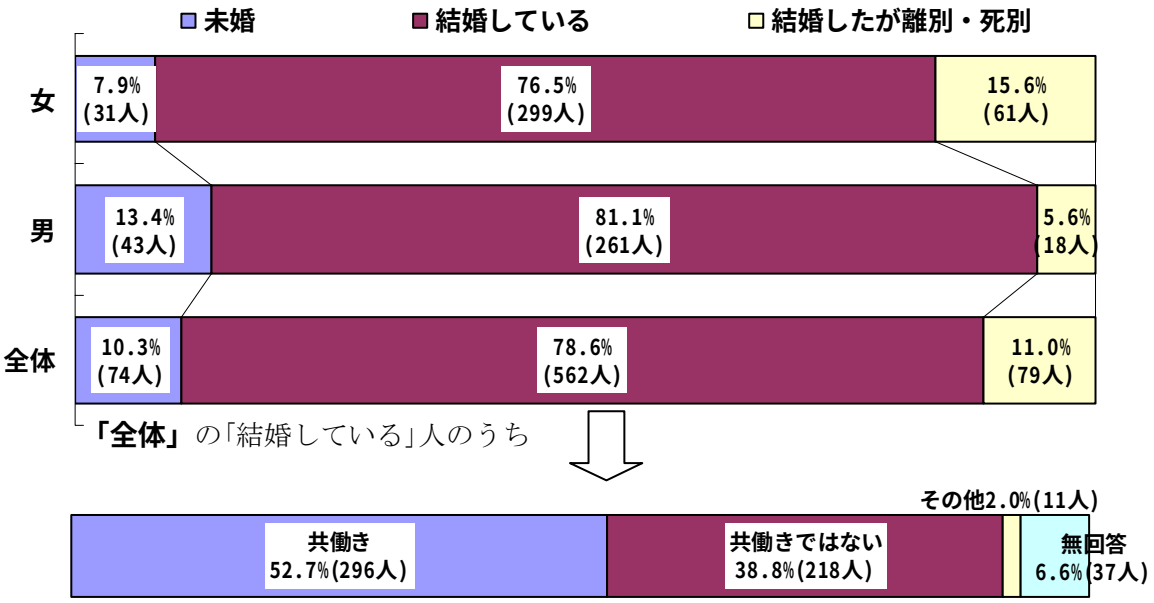
回答者の構成を婚姻の状況別に見ると、「結婚している」が 78.6%と多数を占めており、そのうち、共働きの人が 52.7%と半数以上を占め、共働きでない人は、38.8%となっている。

また、家族形態について見てみると、「親と子の世帯」が 42.9%と最も高く、次いで「親と子と孫の三世代家族」が 25.0%と続いている。

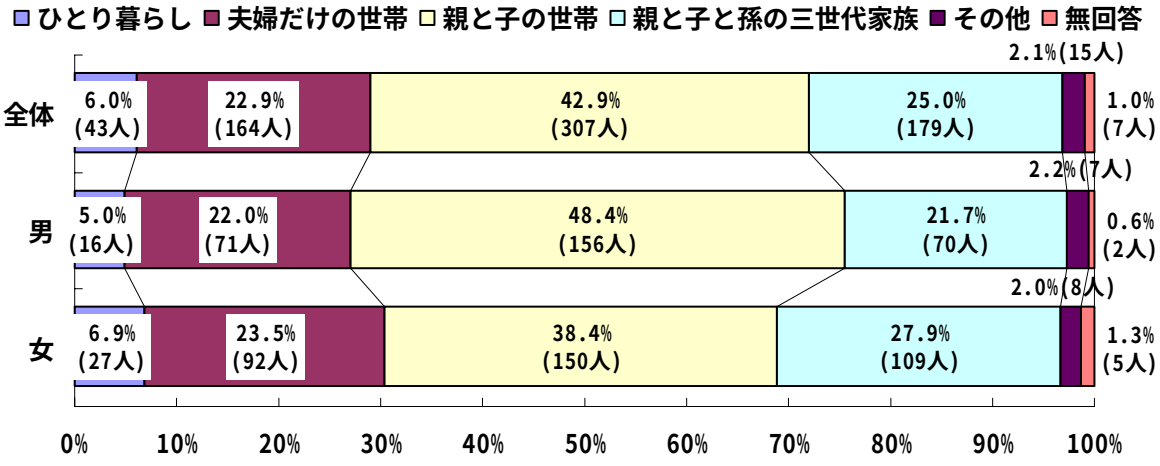
子どもの有無について見てみると、子どもがいる人は全体の 83.1%であり、そのうち、乳幼児がいる人は 11.4%、小学生は 13.8%、中学生は 7.7%、高校生 12.3%、大学・大学院生 10.1%、学校を卒業（中退を含む）が 53.4%となっている。

子どもの人数については、2 人が 43.8%と最も高く、次いで、3 人が 23.5%、1 人が 12.2%となっている。

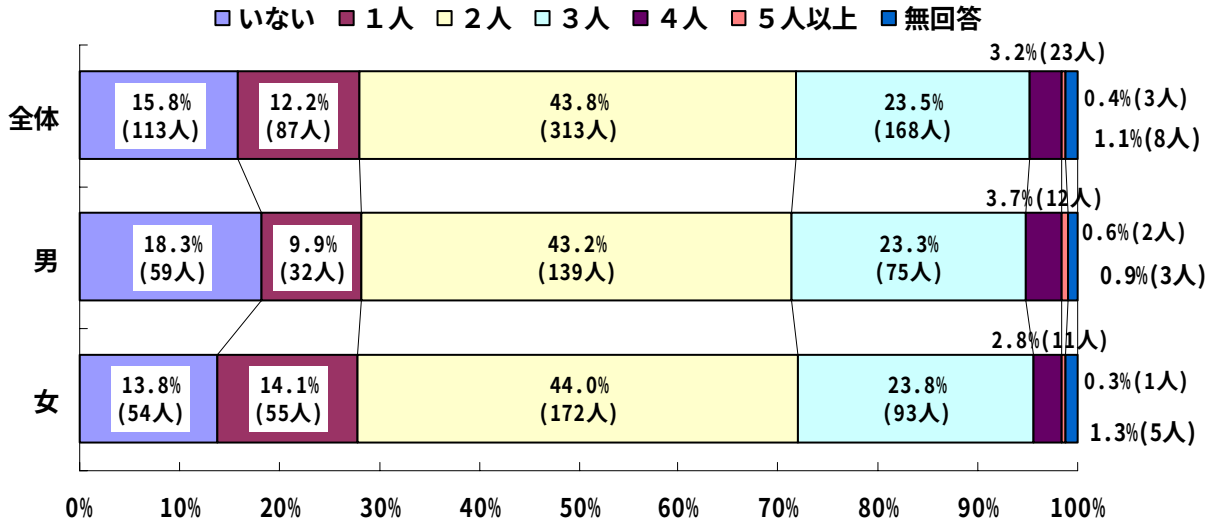
## 問４　婚姻・共働きの状況



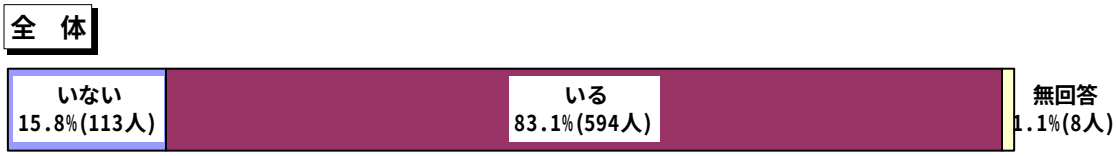

## 問５　家族形態

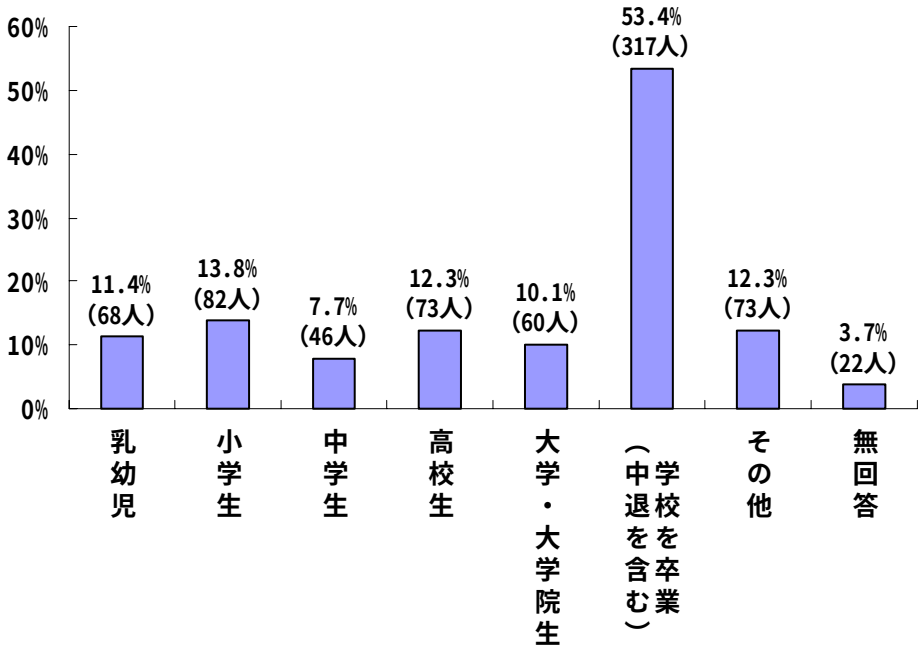


## 問６　子どもの有無



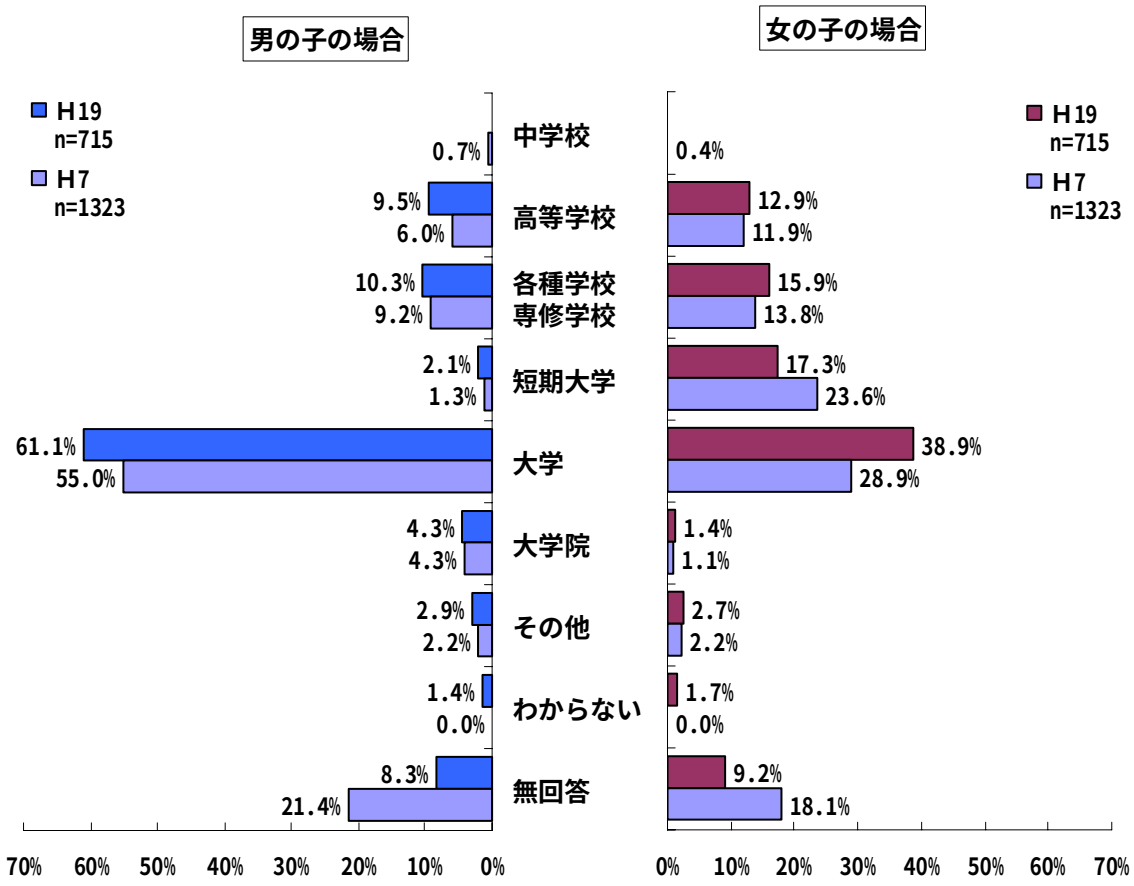

上記表の「１人～５人以上」子どもがいると答えた人を合算して分類すると



## Ⅱ　調査結果

**問 7　あなたは、お子さんにどの程度の教育を受けさせたいと思いますか。ご自分に女の子と男の子がいると仮定して、それぞれ１つずつ選んで○をつけてください。**



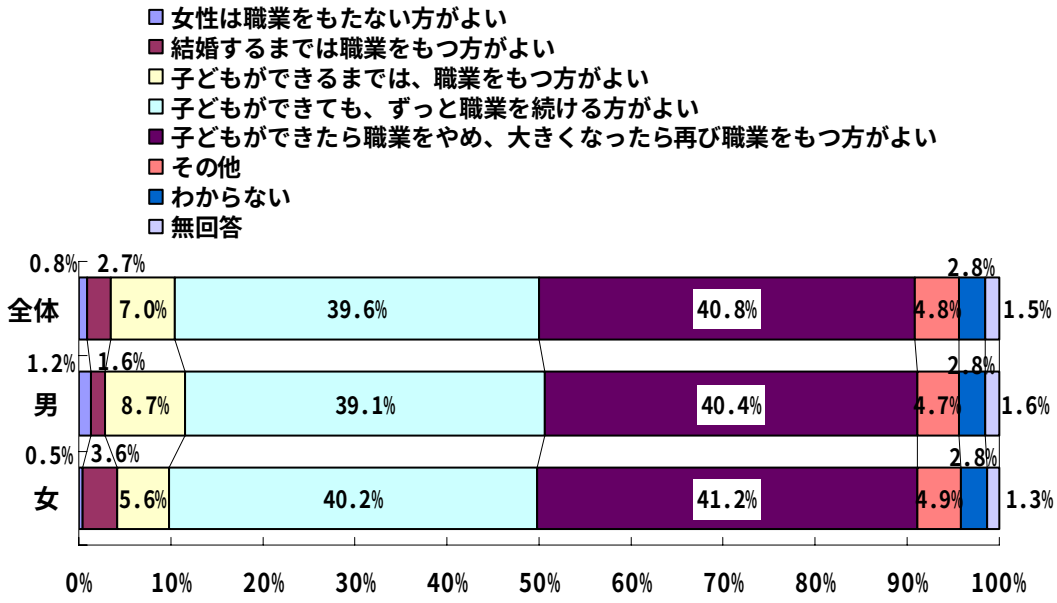

子どもに、どの程度の教育を受けさせたいかについては、男の子の場合は、「大学」が 61.1%と最も多く、次いで「各種学校・専修学校」が 10.3%、「高等学校」が 9.5%となっている。

女の子の場合は、「大学」が 38.9%、「短期大学」が 17.3%、「各種学校・専修学校」が 15.9%、「高等学校」が 12.9%となっており、前々回（平成７年）同様、「女の子」「男の子」ともに「大学」の割合が最も多く、「男の子」の方が「女の子」よりも 20 ポイント以上高くなっている。

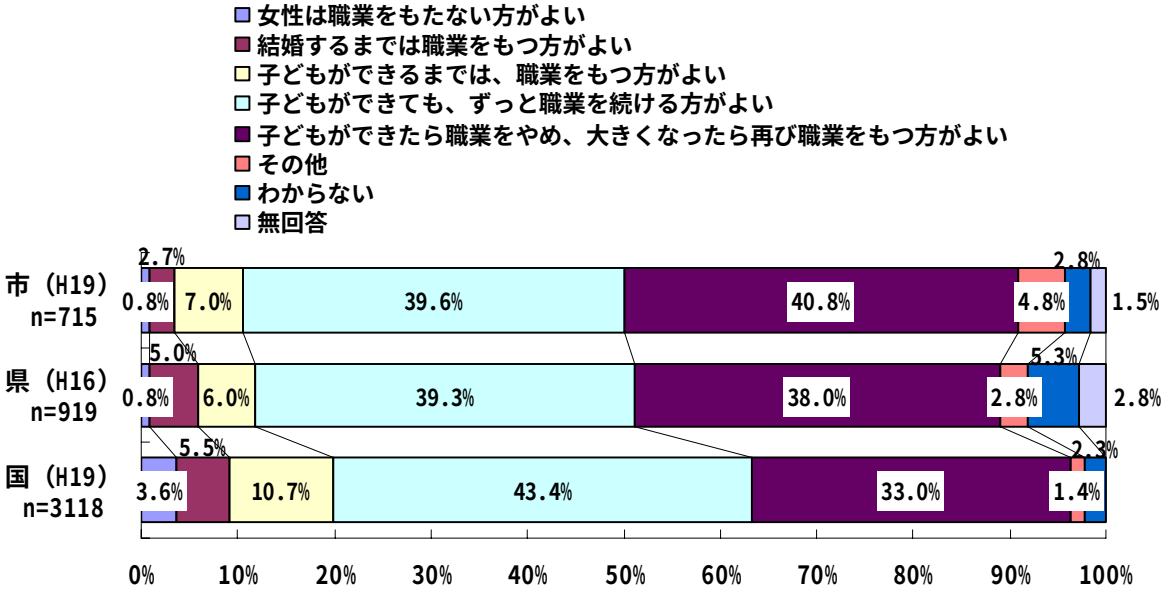
前々回との比較をみると、「女の子」の場合は、「短期大学」が 6.3 ポイント減少しているのに対し、「大学」は 10 ポイント増加している。また、「男の子」の場合は、あまり大きな変化は見られないものの、その中でも「大学」は 6.1 ポイント増加している。

さらに、「高等学校」「各種学校・専修学校」「短期大学」の割合は、前々回同様、「女の子」の方が「男の子」よりも高い割合となっている。

**問 8　一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。１つ選んで○をつけてください。**




〔国・県との比較〕



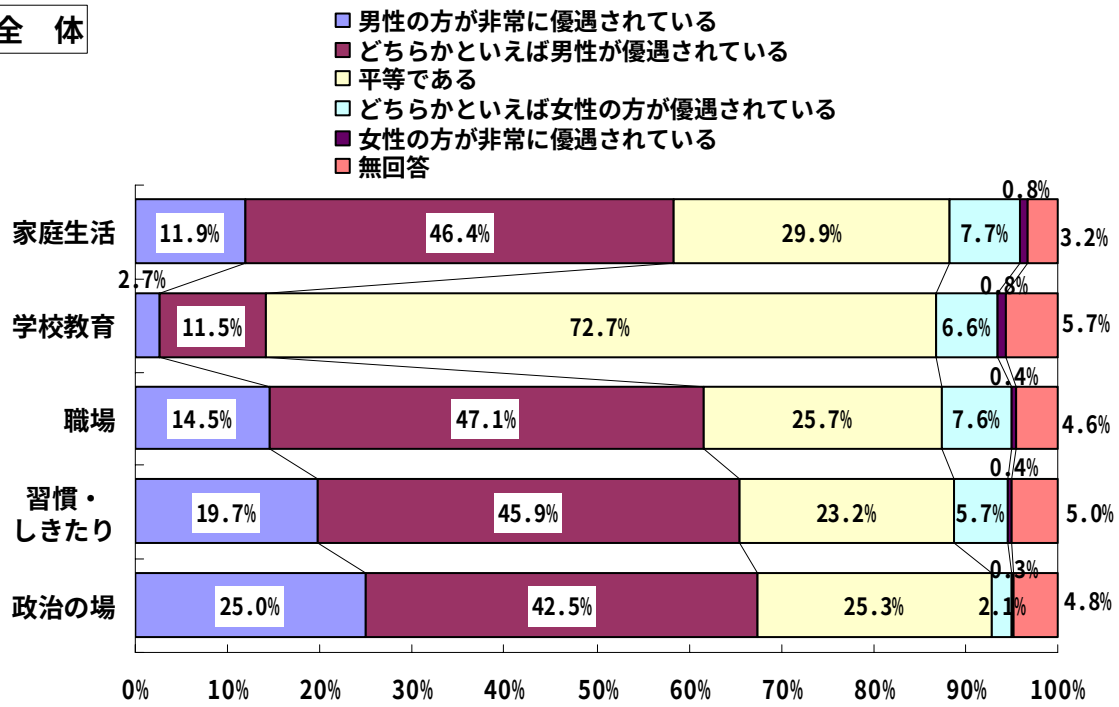

女性が職業を持つことについては、全体では、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」（40.8%）と「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」（39.6%）の割合が高く、ともに約４割となっている。

男女別を見ると、男女ともに「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」（女性 41.2%、男性 40.4%）と「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」（女性 40.2%、男性 39.1%）の割合が高く、ほとんど男女の差は見られない。

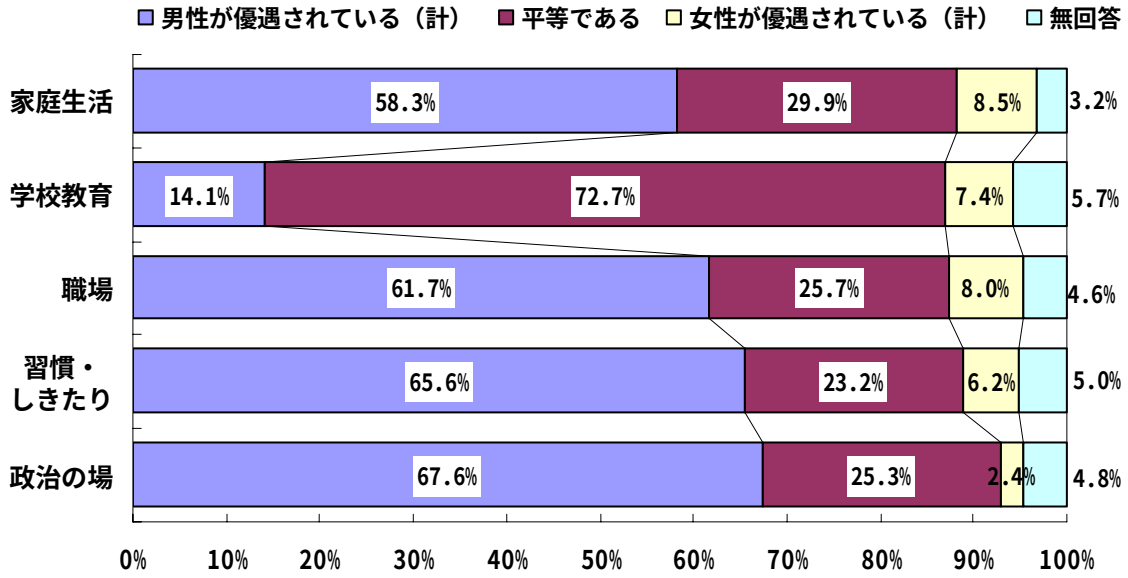
国、県との比較を見ると、国と県は、「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」との回答が最も高いのに対し、本市の場合は、僅差ではあるが、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が最も高くなっている。

**問 9　あなたは、次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの感じ方に近いものをそれぞれ１つずつ選んで番号に○をつけてください。**

**全　体**



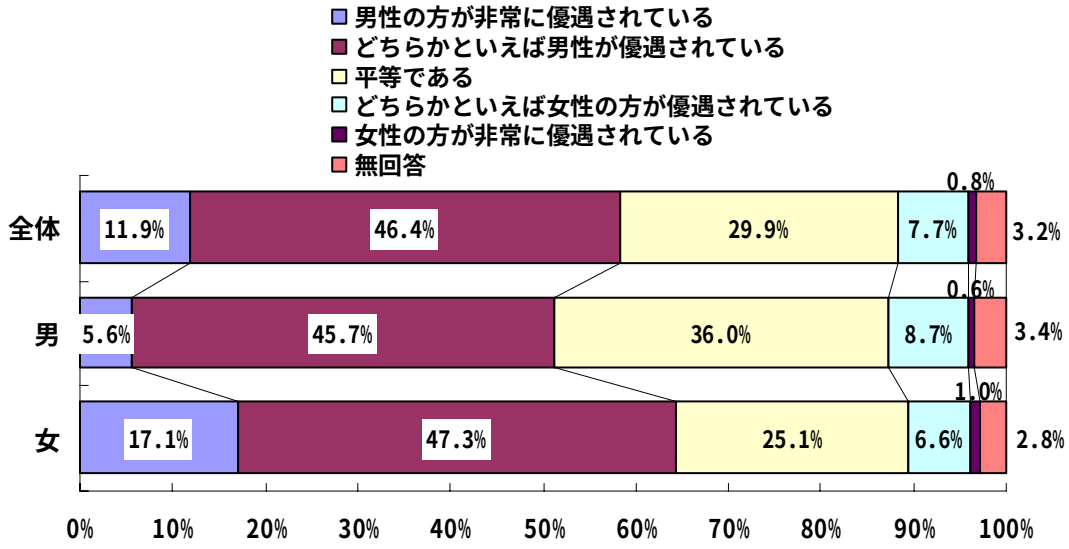

上記表の「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」をそれぞれ合算して分類すると



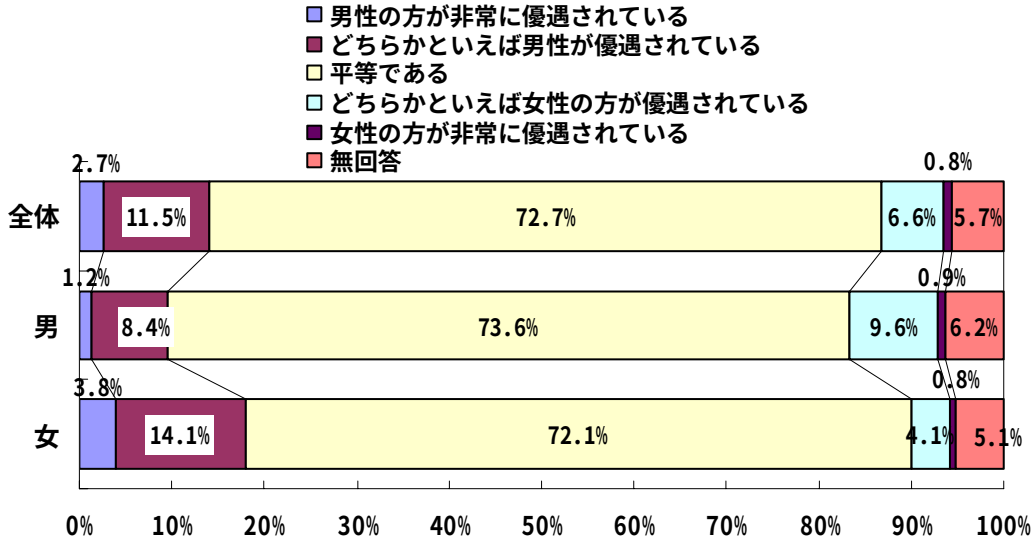

男女の地位の平等感については、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の割合を合計すると、「政治の場」が 67.6%で最も高く、次に「習慣・しきたり」（65.6%）、「職場」（61.7%）、「家庭生活」（58.3%）と続いている。

いずれの領域を見ても、「女性が優遇されている」という回答は少ないが、唯一「学校教育」だけは、72.7%が「平等である」と回答している。

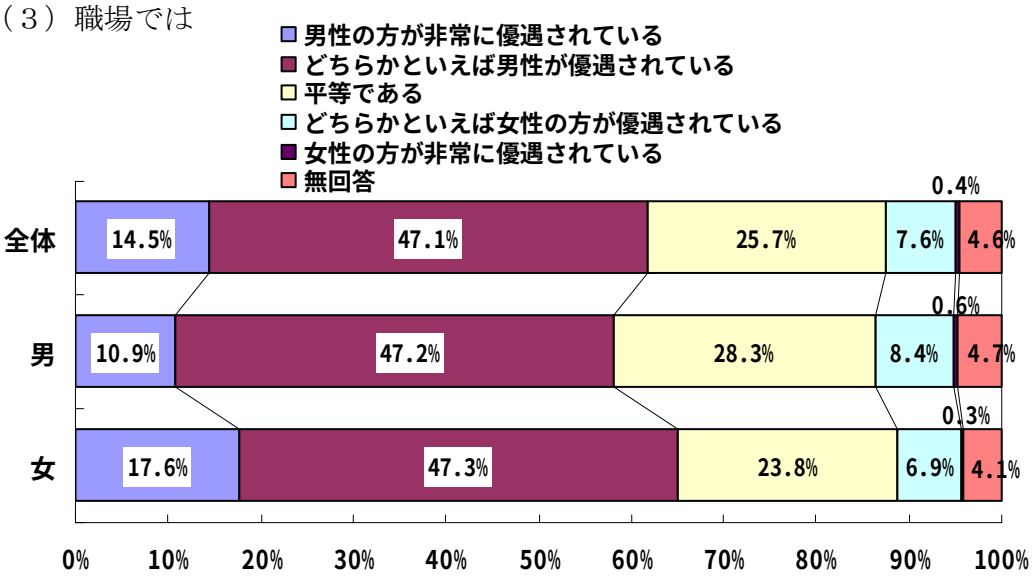
（１）家庭生活では



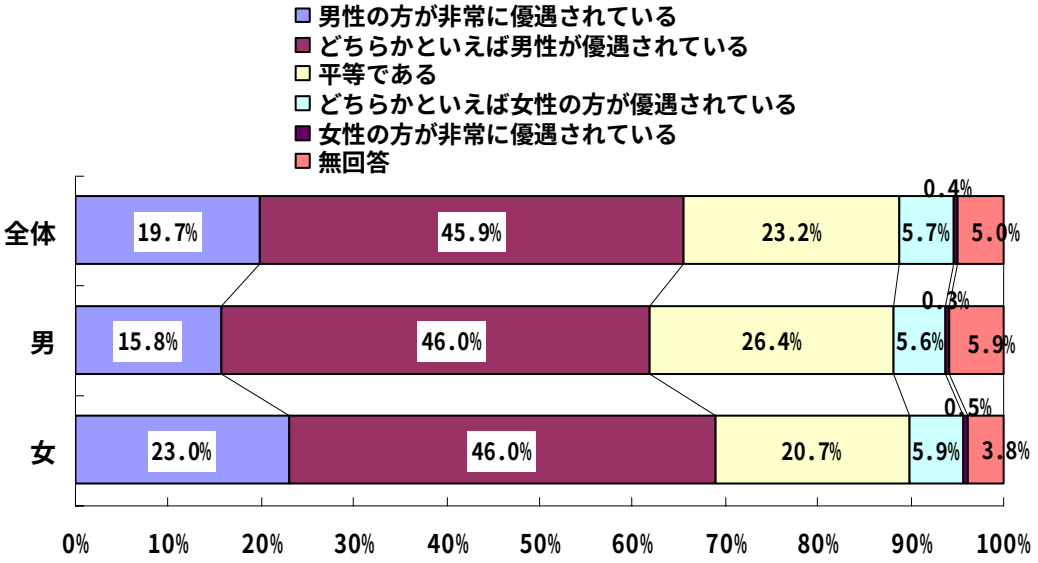

（２）学校教育の場では



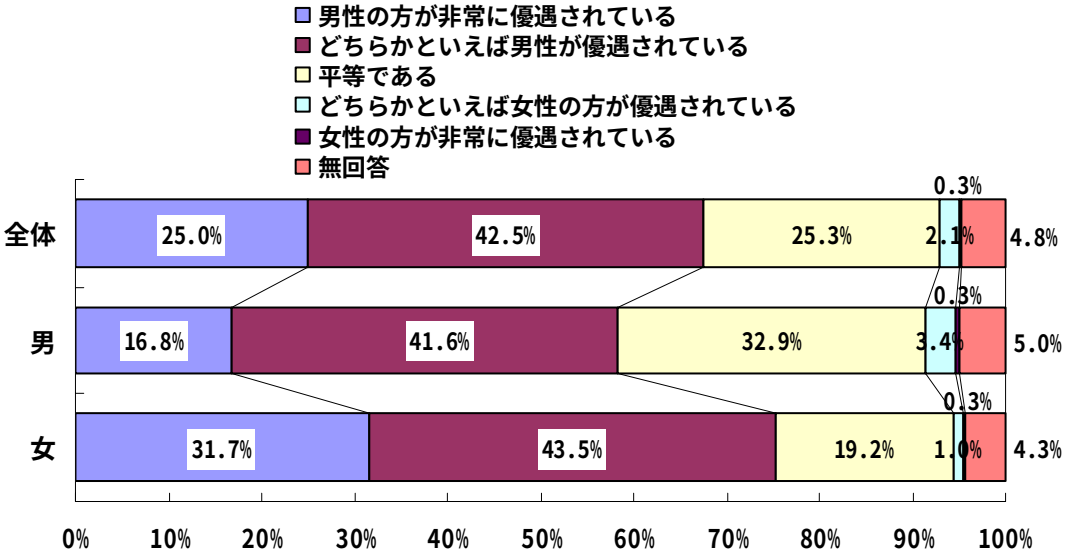

（３）職場では



（４）習慣・しきたりでは

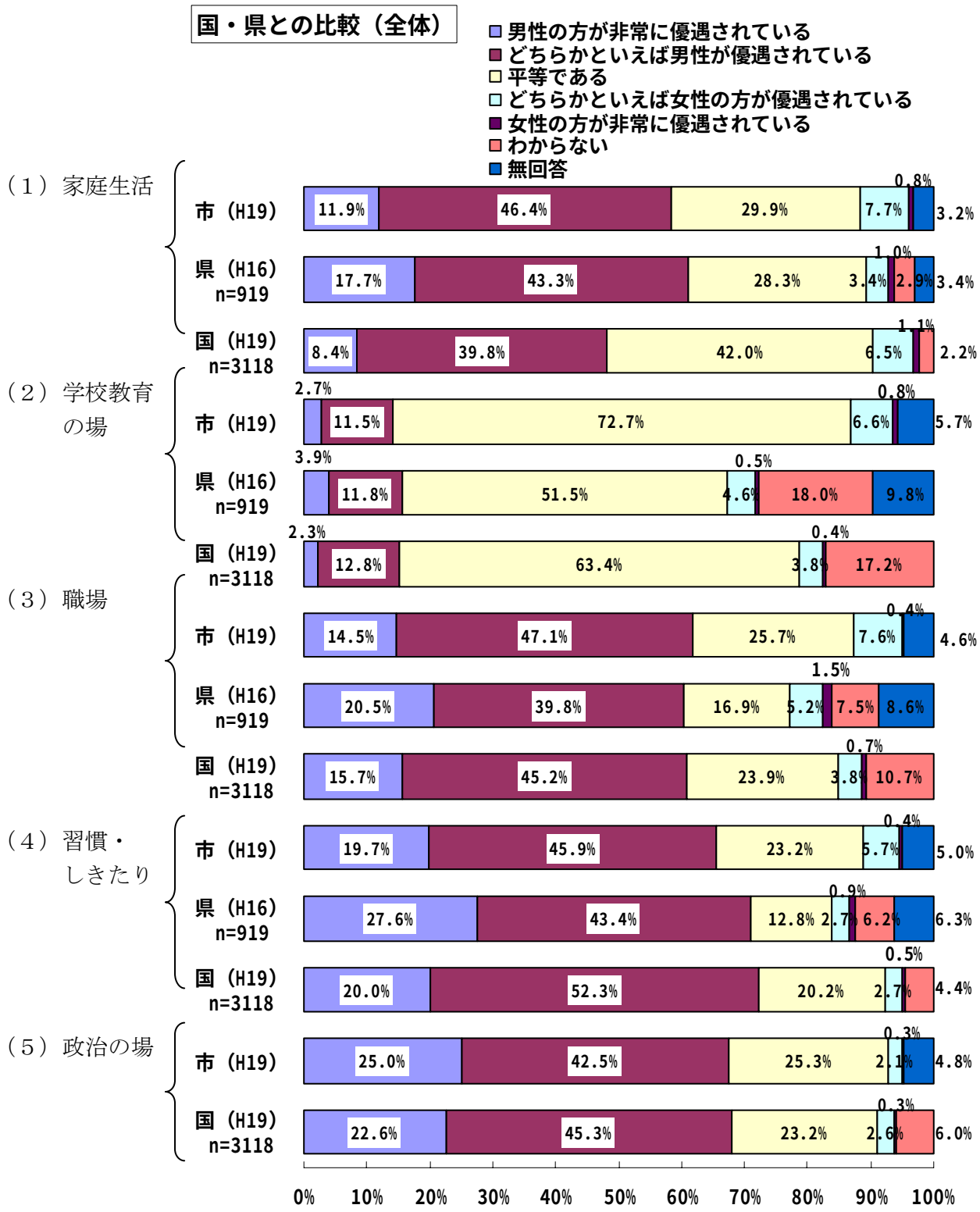



（５）政治の場では




各領域での男女の比較を見ると、⑴から⑸のどの分野でも、「平等である」との回答が、女性よりも男性の方が多い。

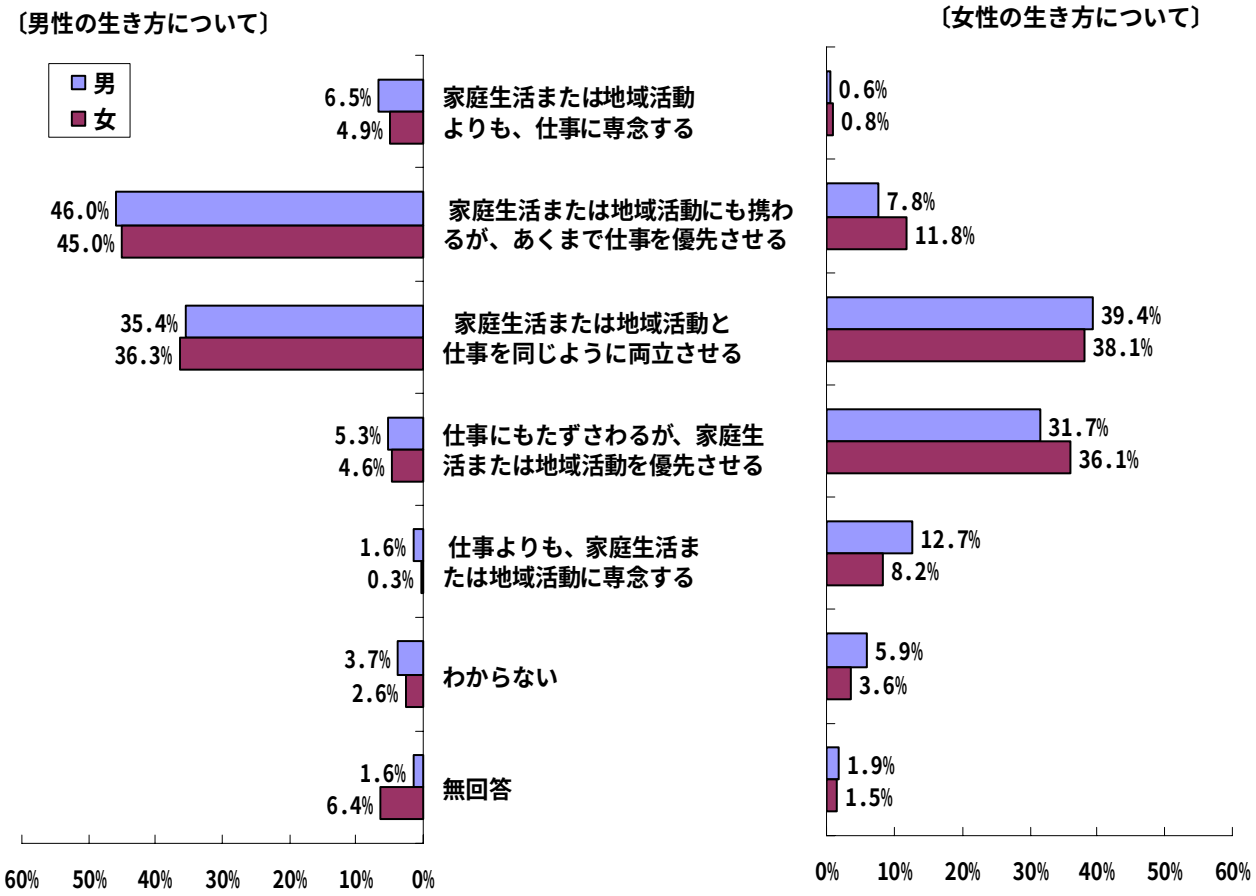
その中でも、「家庭生活」と「政治の場」では、他の領域と比較すると男女の意識の違いが顕著に表れている。「家庭生活で平等である」と感じている男性が 36.0％に対し、女性は 25.1％、「政治の場で平等である」と感じている男性が 32.9％に対し、女性は 19.2％である。




国と本市を比較して見ると、「家庭生活」で「平等である」と回答している人が、国の方が12.1ポイント高くなっているものの、それ以外の４項目について「平等である」と回答した人は、本市の方が上回っている。

一方、県との比較では、「学校教育の場」以外の４項目については、あまり大きな違いが見られないが、「学校教育の場」については、「平等である」と回答している人が、県では51.5%に対して、本市は72.7%と21.2ポイント高くなっている。

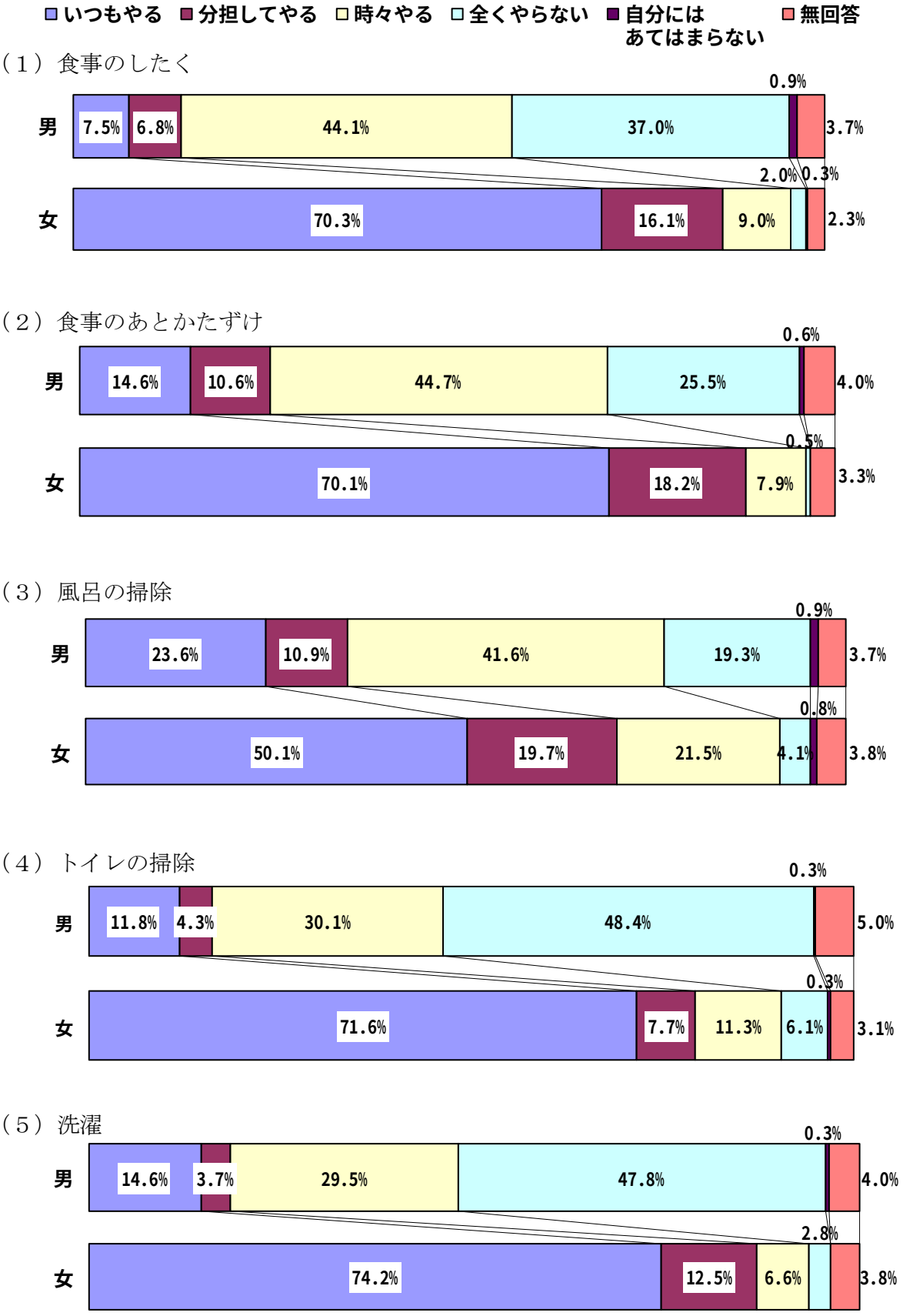
**問 10　女性及び男性の生き方として、あなたが望ましいと思うのは、どのような生き方でしょうか。女性の生き方、男性の生き方両方について、それぞれ１つずつ選んで○をつけてください。**



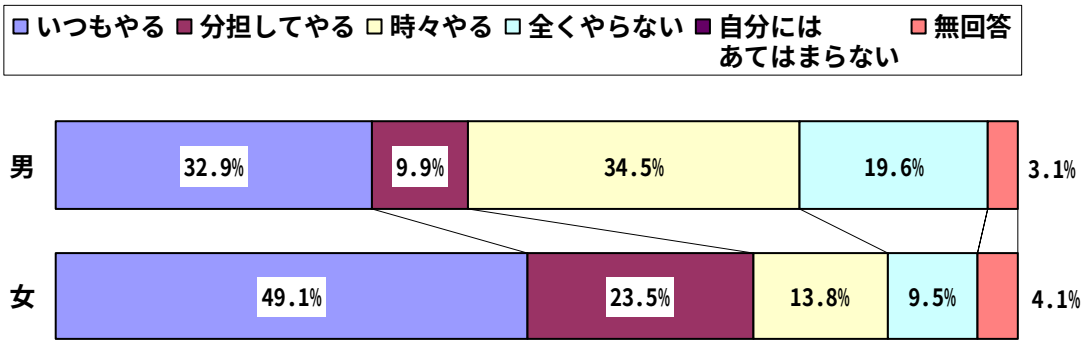

女性及び男性の生き方については、はじめに、「男性の生き方について」で最も多い回答は、男女ともに、「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」（女性 45.0%、男性 46.0%）となっており、一方、「女性の生き方について」は、男女ともに、「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる」（女性 38.1%、男性 39.4%）、「仕事にもたずさわるが、家庭生活または地域活動を優先させる」（女性 36.1%、男性 31.7%）となっている。

また、男女を比較すると、「女性の生き方」で、「仕事よりも、家庭生活または地域活動に専念する」と回答した人は、女性の 8.2%に対し男性は 12.7%であり、男性の方が 4.5 ポイント高く、一方、「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」と回答している人は、男性 7.8%に対し女性は 11.８%であり、女性の方が 4 ポイント高い。

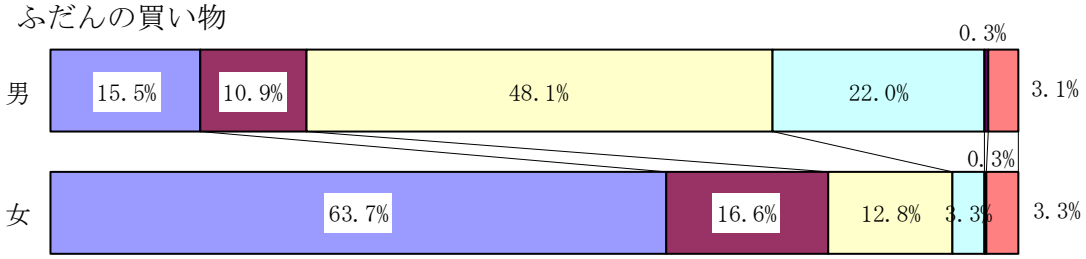
**問 11 あなたは家庭で、次のことについてどの程度行っていますか。それぞれ１つずつ選んで番号に○をつけてください。**



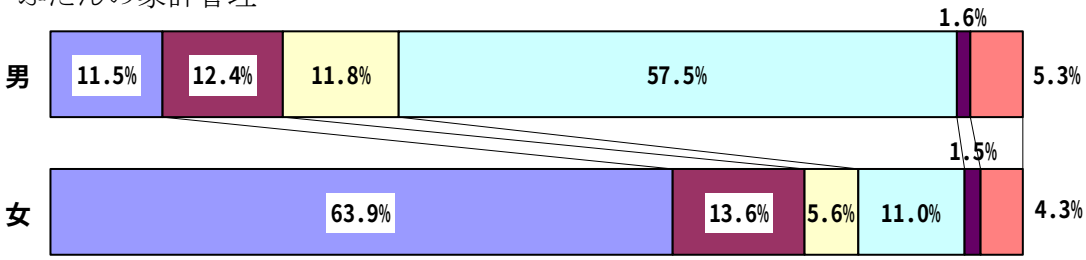
（６）ゴミを出す



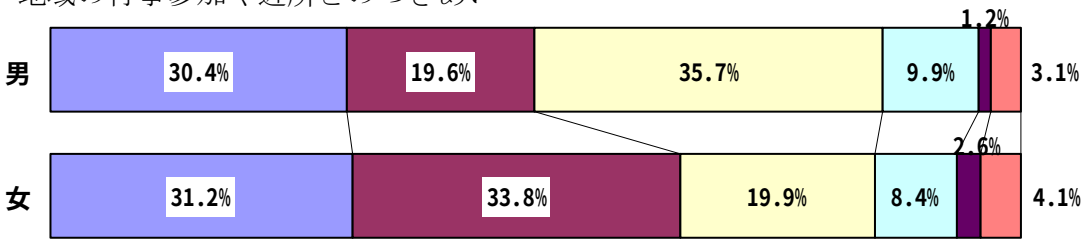

（７）ふだんの買い物



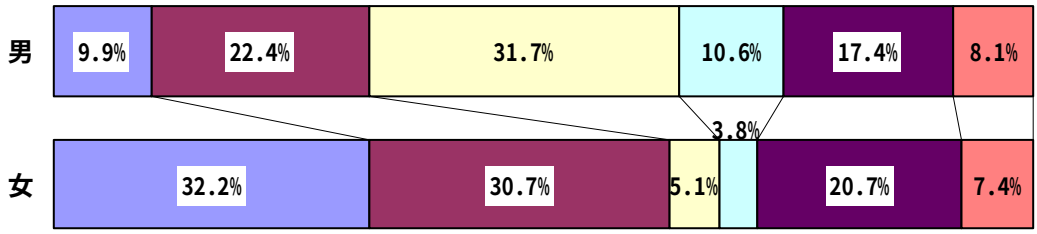

（８）ふだんの家計管理



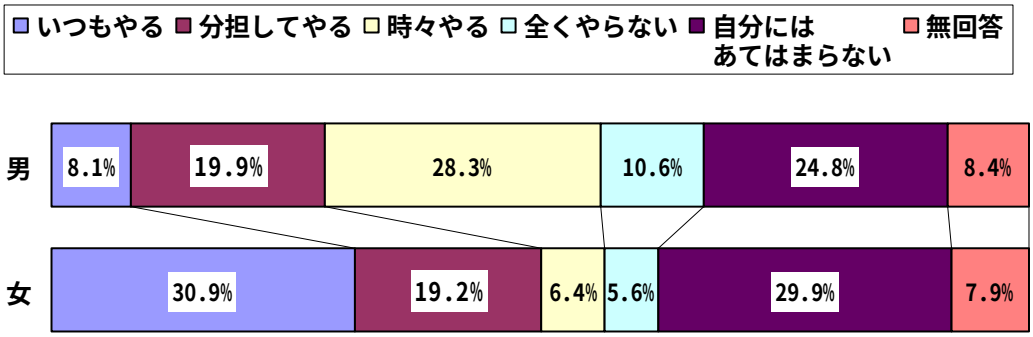

（９）地域の行事参加や近所とのつきあい



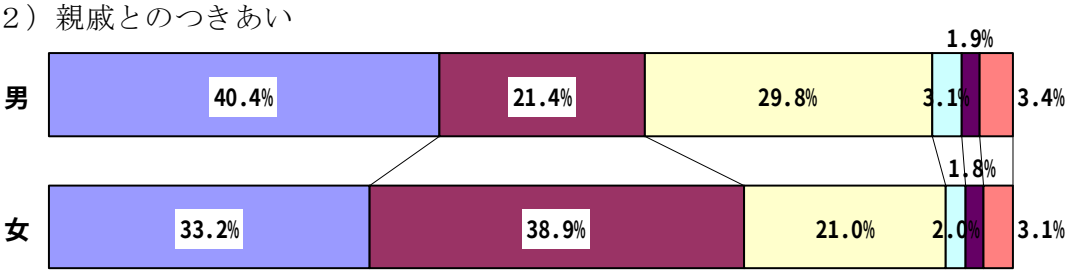

（１０）子どもの世話や教育



（１１）家族の介護・世話




（１２）親戚とのつきあい



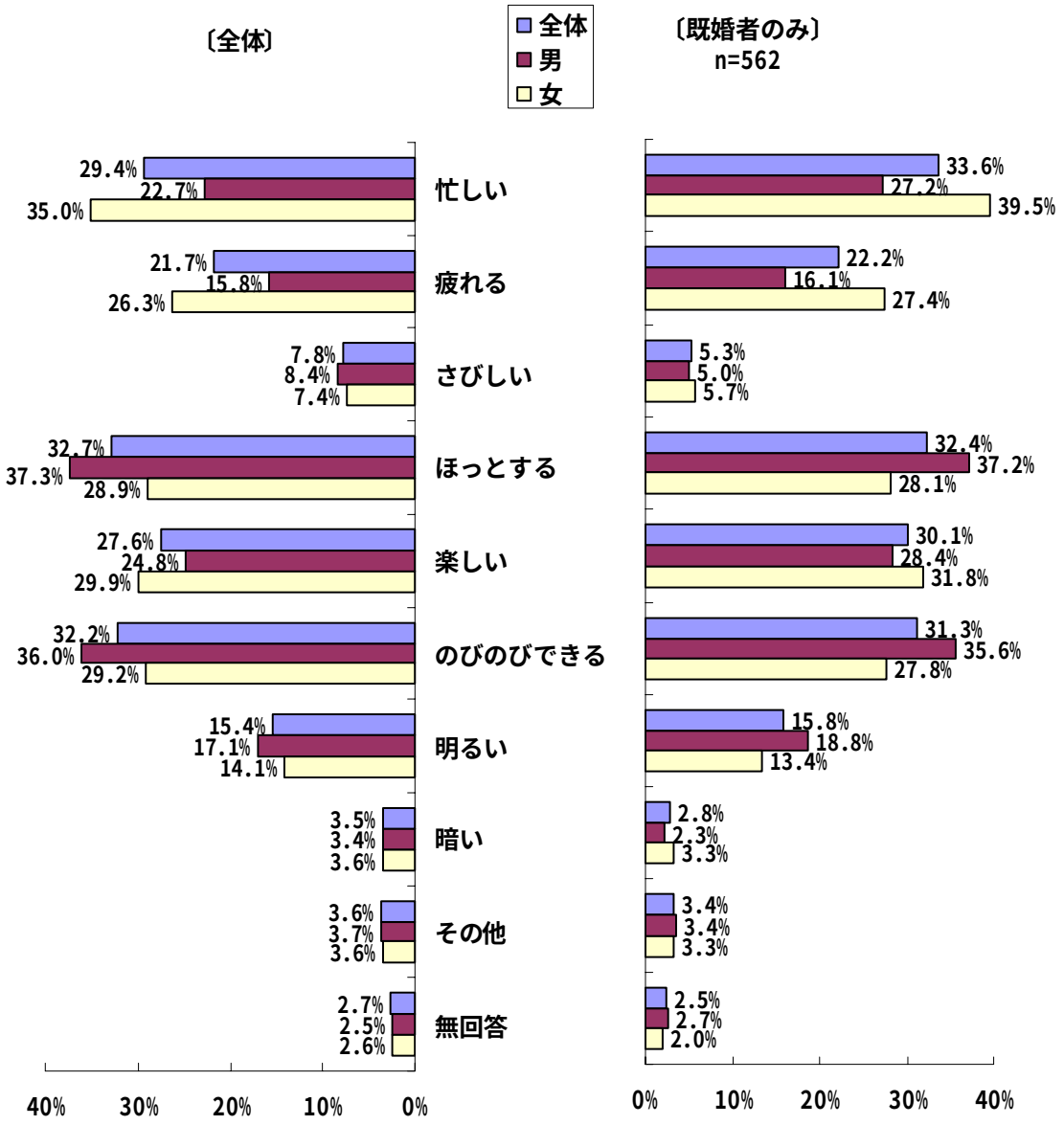

家庭の中での家事負担については、⑴から⑿の項目の中で、「⑴食事のしたく」、「⑵食事のあとかたづけ」、「⑷トイレの掃除」、「⑸洗濯」といった主要な家事に関する項目では、女性が「いつもやる」と回答した割合がいずれも７割を超えている。

これに対して、「いつもやる」との回答が、女性より男性の方が上回っている項目は、「⑿親戚とのつきあい」（女性 33.2%、男性 40.4%）のみであり、7.2 ポイント男性の方が高くなっている。

また、男性が「全くやらない」と回答した項目を見てみると、「⑻ふだんの家計管理」(57.5%)が最も高く、次いで「⑷トイレの掃除」（48.4%）、「⑸洗濯」（47.8%）と続いている。

「分担してやる」という回答を全体的に見ると、家事の領域で男女ともに少ないことが目立つ。

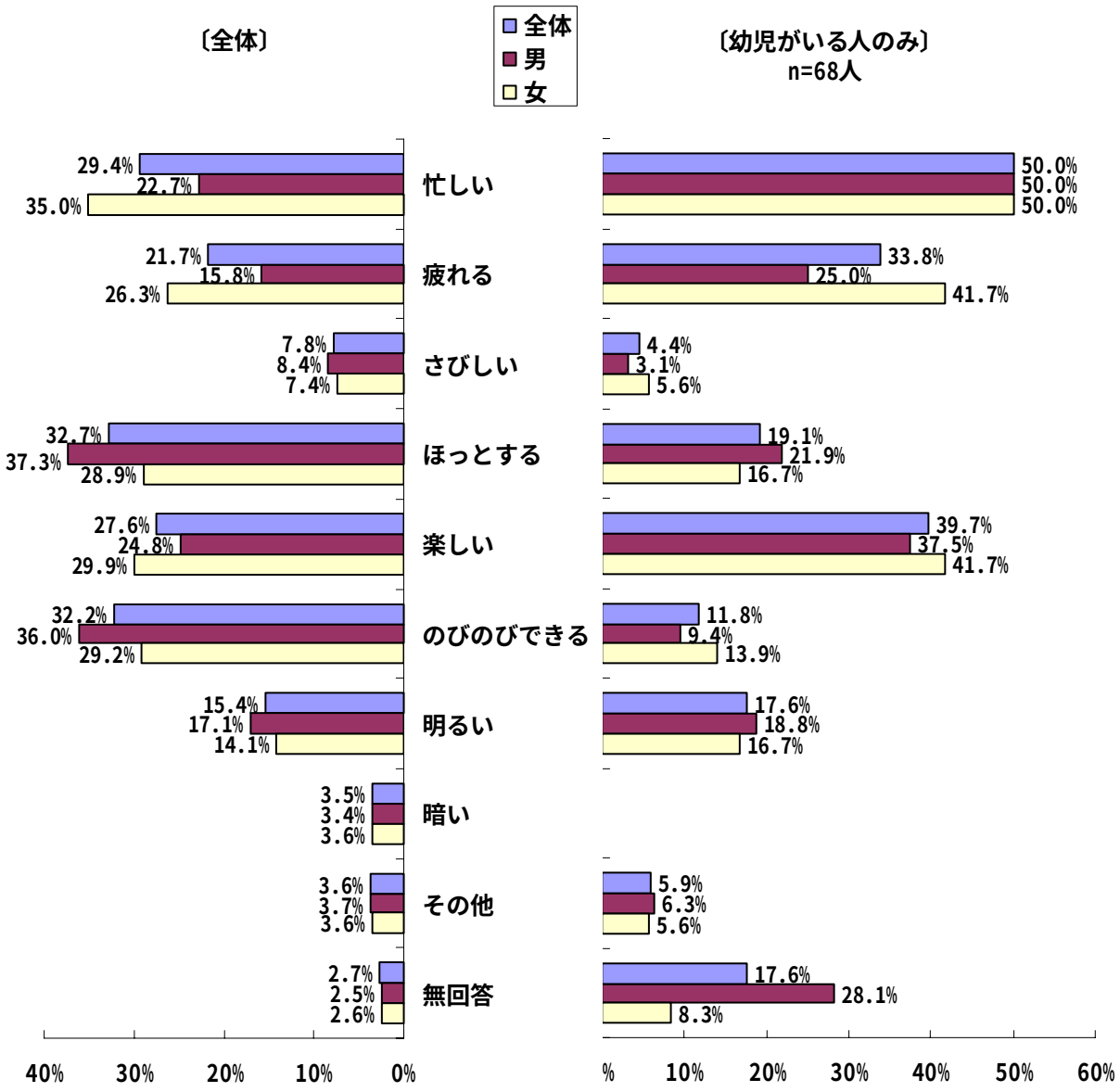
**問 12　あなたは、現在の家庭生活について、どのように感じていますか。あてはまるものを２つまで、選んで○をつけてください。**




家庭生活について、どのように感じているかについては、全体を見みると、最も高いのが「ほっとする」（32.7%）で、僅差で「のびのびできる」（32.2%）が続いている。次いで、「忙しい」（29.4%）、「楽しい」（27.6%）、「疲れる」（21.7%）となっている。

また、男女別に最も高い項目を見てみると、男性は「ほっとする」（37.3%）であるのに対し、女性は、「忙しい」（35.0%）と感じている人が最も多い。

また、「既婚者のみ」の男女を比較すると、男女の差が顕著に表れているのが、「忙しい」（女性 39.5%、男性 27.2%）と、「疲れる」（女性 27.4%、男性 16.1%）であり、どちらも女性の方が 10 ポイント以上高くなっている。

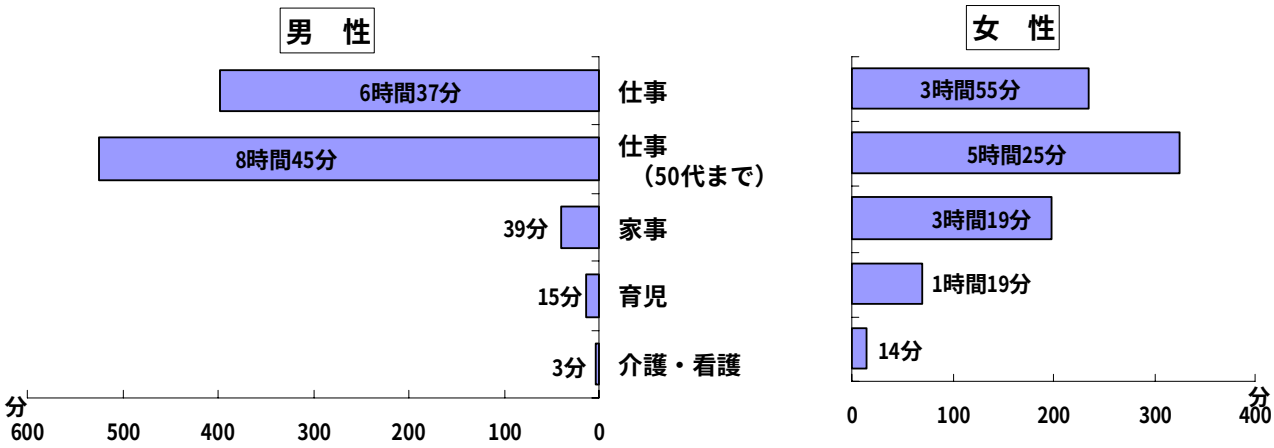



「幼児がいる人のみ」で最も高いのは、全体では、「忙しい」が 50.0%であり、半数が忙しいと感じている。次いで、「楽しい」が 39.7%、「疲れる」が 33.8%と続いている。

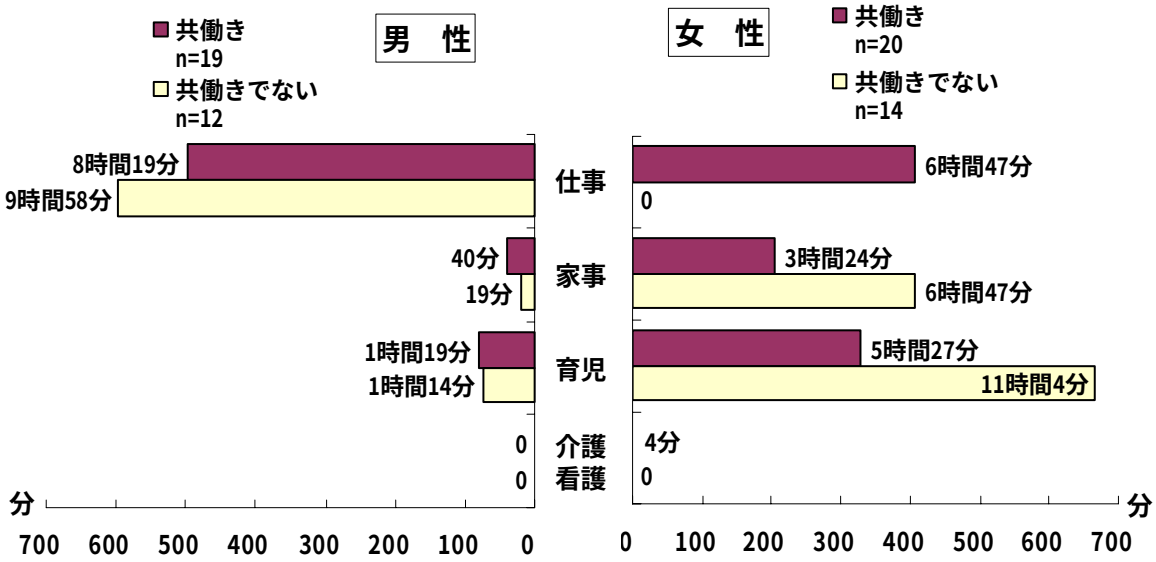
また、男女を比較して見ると、顕著に表れている項目は、「疲れる」であり、女性 41.7%に対し男性 25.0%であり、女性の方がほぼ 16 ポイント高くなっている。

**問 13　あなたは、次にあげる項目について、一日にどの程度の時間を費やしていますか。**
**（就業している人は、仕事をしている日で記載してください。）**

〔全体〕




〔幼児のいる家庭のうち、「共働き」と「共働きでない」人の比較〕




一日の時間の費やし方については、家庭内の仕事（家事・育児・介護）は、男性と比較して女性の方が、かなりの時間を費やしていることがうかがえる。

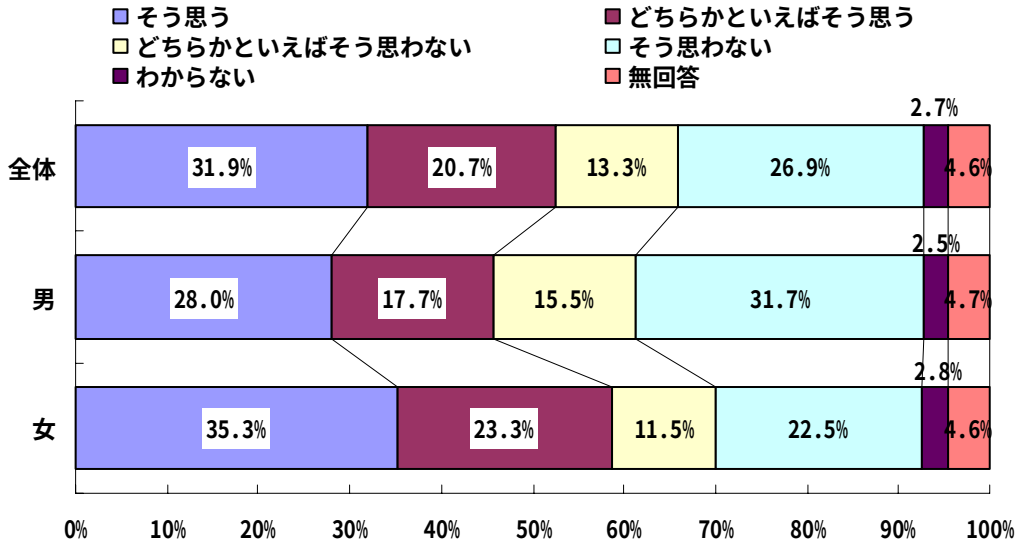
「幼児のいる家庭」での共働きと共働きでない場合を比較すると、共働きの男性は、共働きでない男性より、仕事については 1 時間 39 分短く、家事・育児については 26 分長くなっているものの、共働きか共働きでないかによって家庭内の仕事（家事・育児・介護）への影響はあまり見られないことが伺える。

一方、共働きの女性については、仕事をしながら家事、育児に 9 時間弱も携わっており、どちらかというと、共働きの女性への負担が重くのしかかっていることがうかがえる。

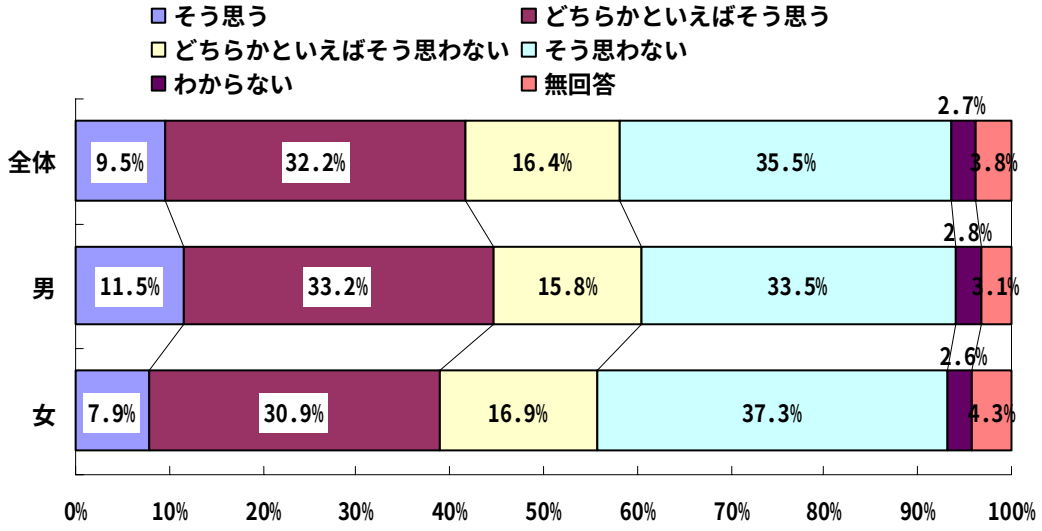
さらに、共働きでない女性に関しては、家事が 6 時間 47 分、育児については 11 時間 4 分と、1 日の大半を家事、育児に費やしていることがうかがえる。

**問 14　結婚、家庭、離婚に関する考え方について、あなたのお考えに最も近いものをそれぞれ１つずつ選んで番号に◯をつけてください。**

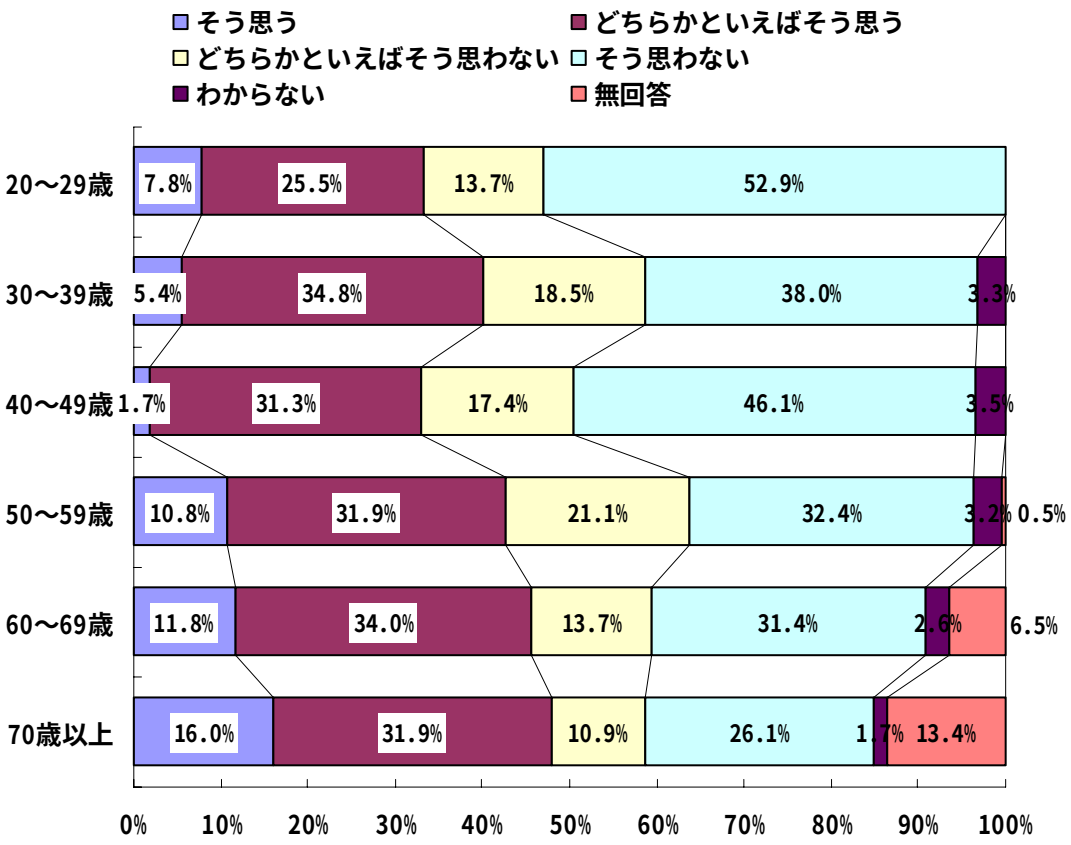
### (1) 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい



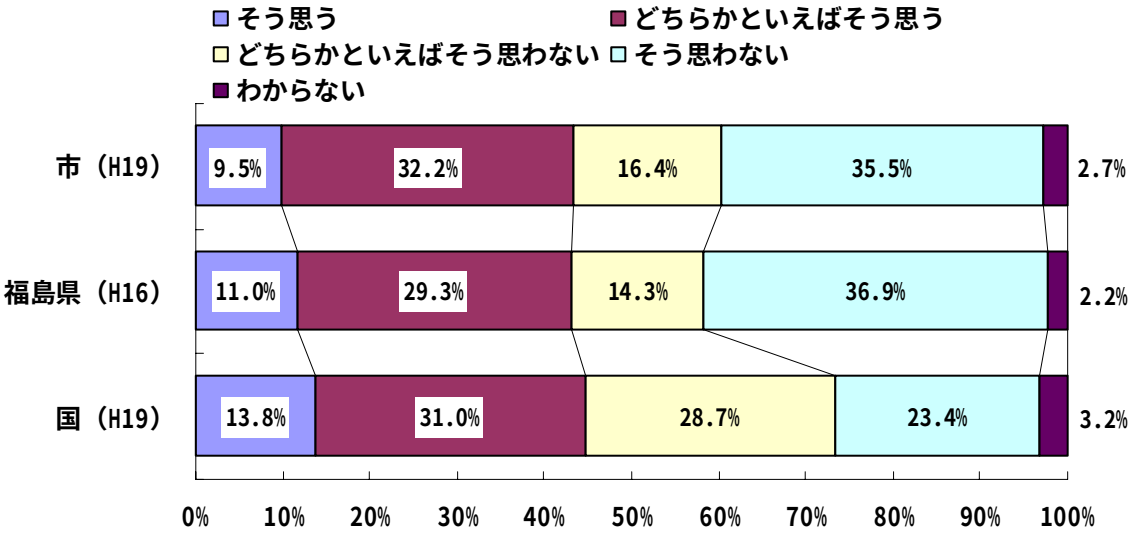

### （２）夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである



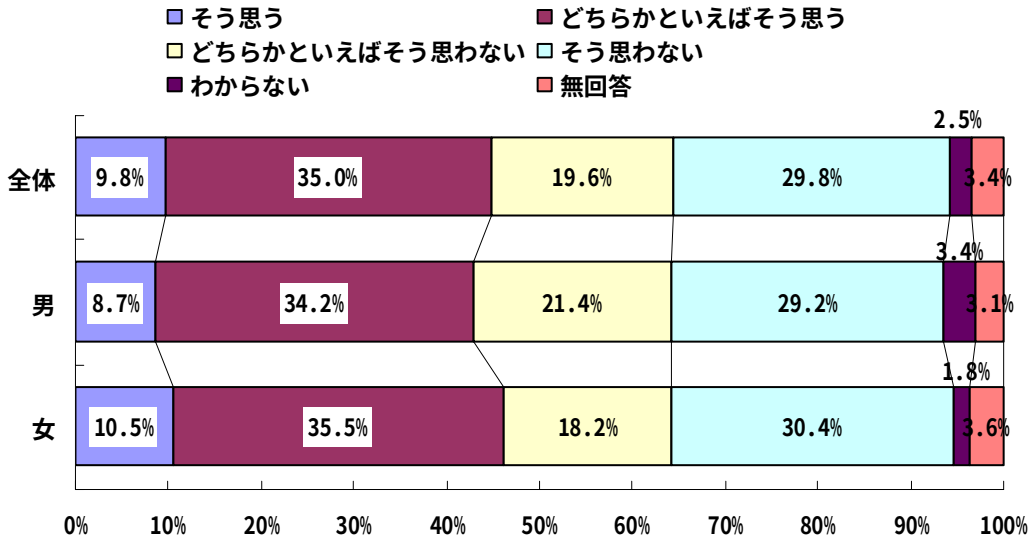
〔年代別〕



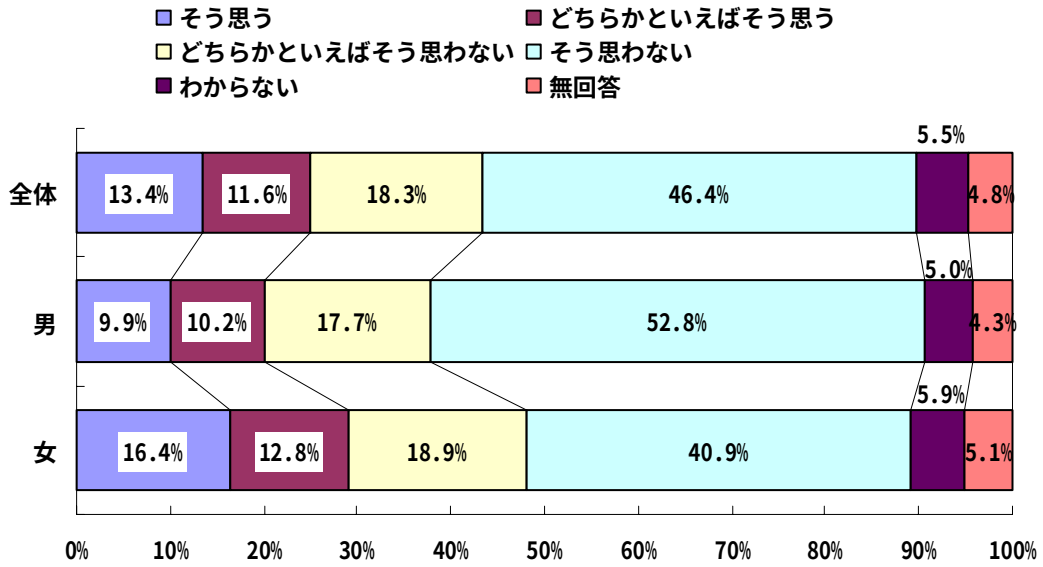

〔国・福島県との比較〕



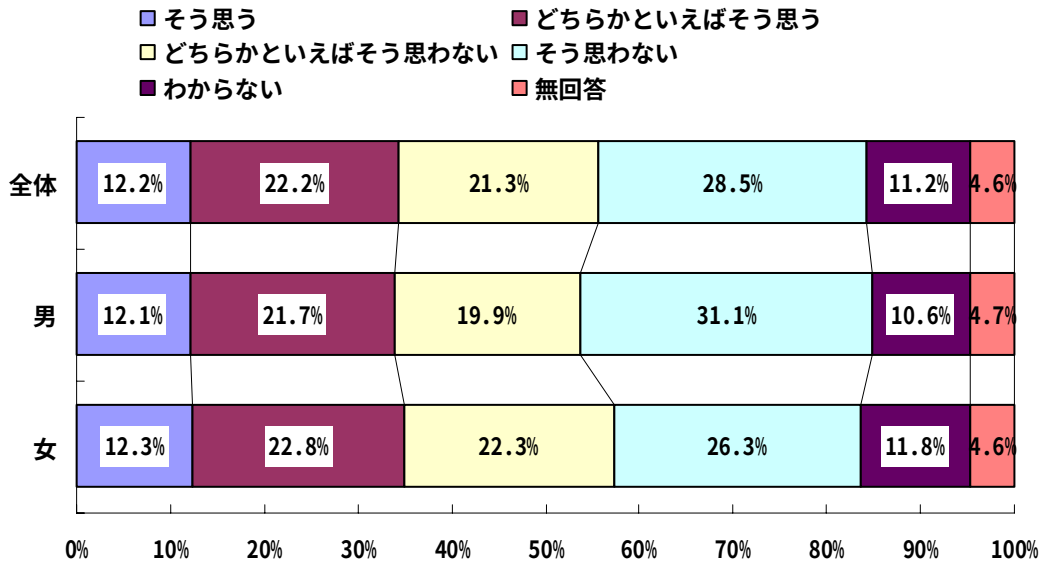
## （３）女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子ども など家族を中心に考えて生活した方がよい




## （４）結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない



## （５）結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい




結婚、家庭、離婚に関する考え方については、「⑴結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」は、肯定派が多く、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計した割合が 52.6%となっている。逆に、否定派である、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計は 40.2%となっている。

「⑵夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」については、否定派の方が多く 51.9%であり、国（52.1%）と県（51.2%）の意識調査と同様の結果がでている。また、年代別を見ると否定派の割合が最も高いのが 20 代であり、次いで 40 代、30 代と続いており、50 代以上は、高年代になればなるほど否定派の割合が低くなり、60 代、70 代は、否定派より肯定派の割合が高くなっている。

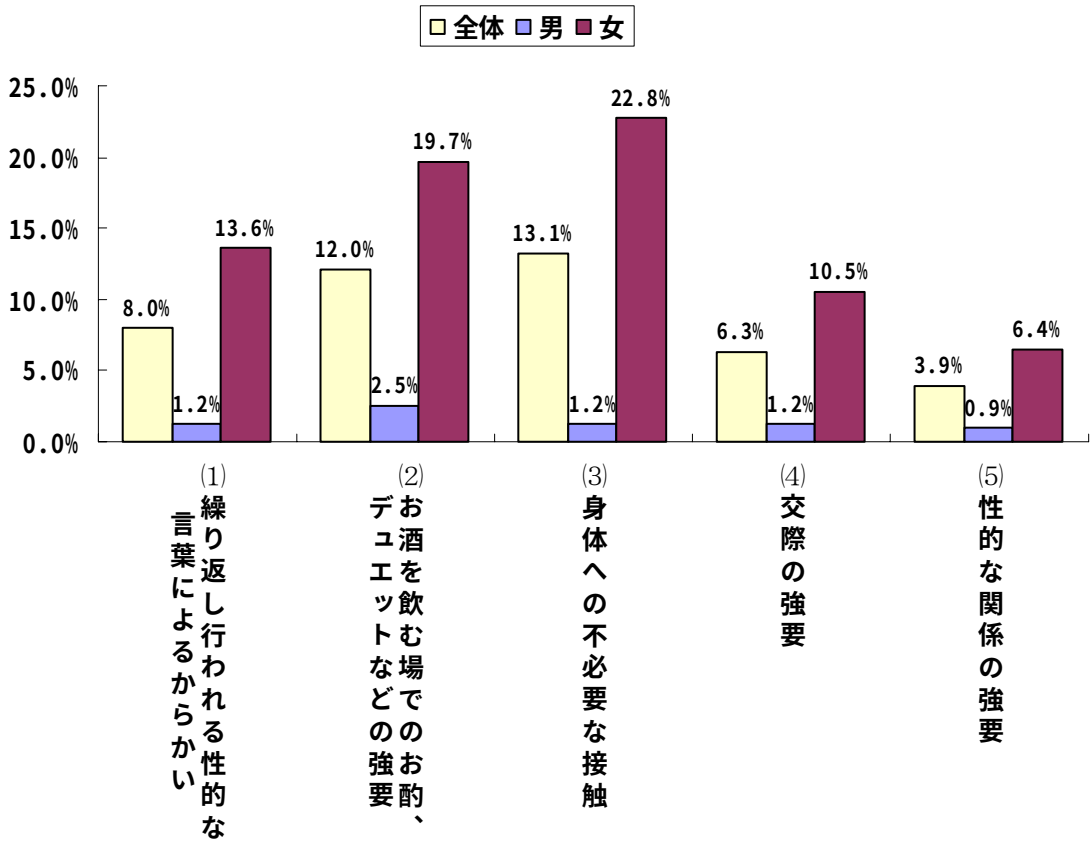
「⑶女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい」については、肯定派は 44.8%、否定派が 49.4%となっている。

「⑷結婚しても必ずしも子どもをもつ必要性はない」については、否定派が多く 64.7%となっている。男女の比較を見ると、男性の否定派の 70.5%に対し女性の否定派は 59.8%であり、男性の方が 10.7 ポイント高くなっている。

「⑸結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」については、否定派が 49.8%となっている

**問 15　あなたは、これまでに、職場や学校、地域などで、次にあげるセクシュアル・ハラスメント（セクハラ）をされたこと、またはしたことがありますか。それぞれあてはまる番号１つに○をつけてください。**

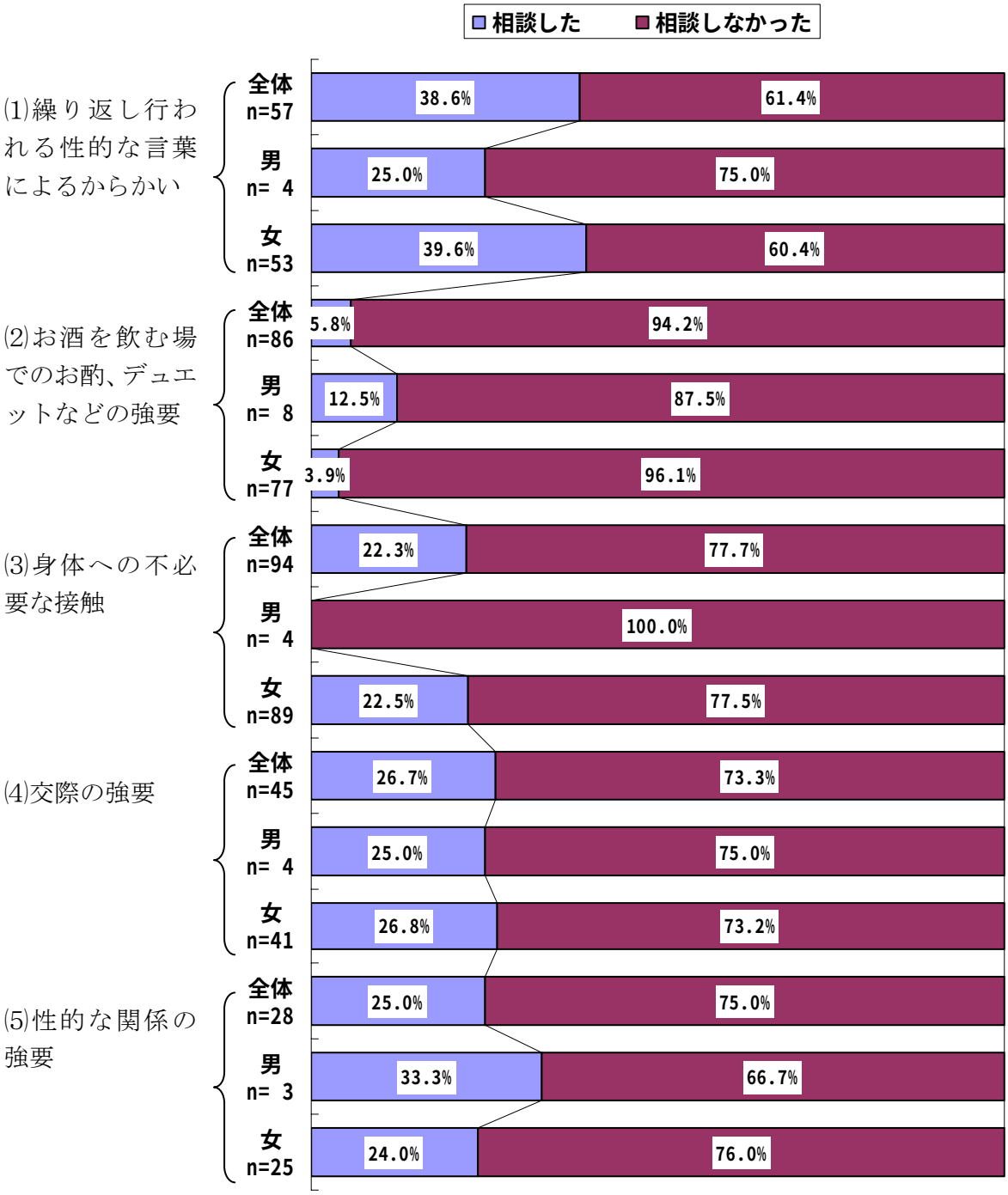
**〔セクハラを「されたことがある」と答えた人〕**




⑴から⑸までの設問の中で、セクシュアル・ハラスメントを「されたことがある」の回答が最も高かったのは、「⑶身体への不必要な接触」であり、全体で 13.1%、女性では 22.8%とほぼ 4 人に 1 人が経験していることになる。　次いで、「⑵　お酒を飲む場でのお酌、デュエットなどの強要」であり、全体で 12.0%、女性では 19.7%とほぼ 5 人に 1 人が経験していることになる。次いで、「⑴　繰り返し行われる性的な言葉によるからかい」（全体 8%、女性 13.6%）、「⑷　交際の強要」（全体 6.3%、女性 10.5%）、「⑸　性的な関係の強要」（全体 3.9%、女性 6.4%）と続いている。

また、男性の被害経験については、女性の被害経験者と比較すると小数ではあるものの、その中でも「⑵お酒を飲む場でのお酌、デュエットなどの強要」が 2.5%と最も高い。

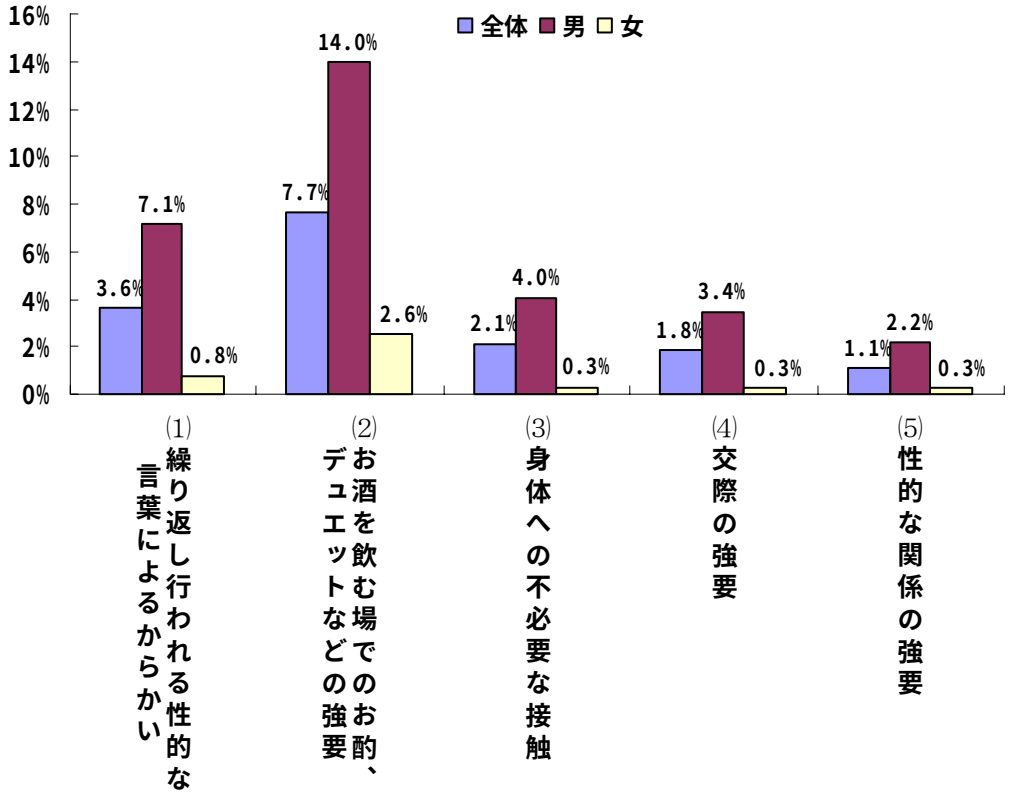
〔相談したかどうか〕




全体で、被害を受けたときに「だれかに相談したか、相談しなかったか」については、全ての項目において、「相談しなかった」との回答が多く、その中でも最も多かった項目は、「⑵お酒を飲む場でのお酌、デュエットなどの強要」で 94.2%である。

また、女性の場合は、その項目で 96.1%が「相談しなかった」と答えており、次いで、「⑶身体への不必要な接触」（女性 77.5%）、「⑸　性的な関係の強要」（女性 76%）、「⑷　交際の強要」（女性 73.2%）、「⑴　繰り返し行われる性的な言葉によるからかい」（60.4%）が続いている。

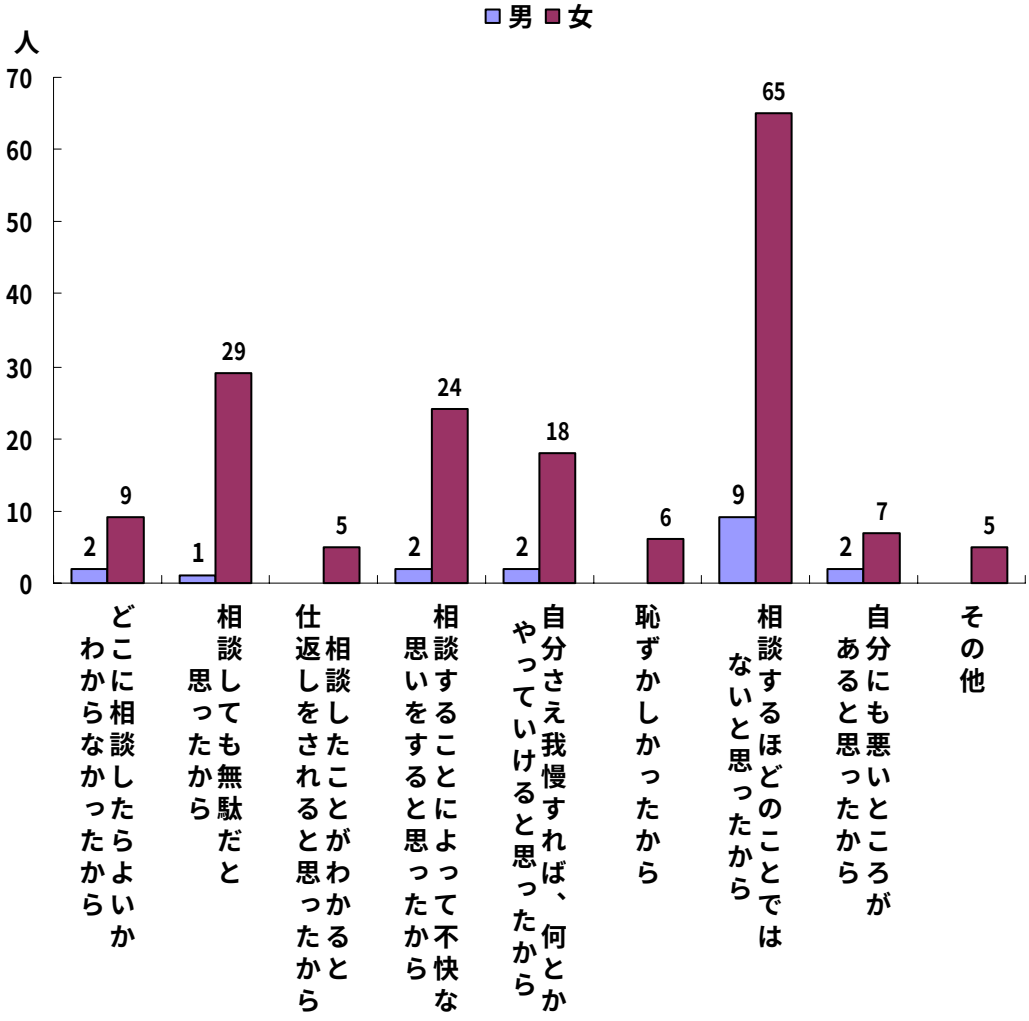
〔セクハラを「したことがある」と答えた人〕




加害経験については、「⑵　お酒を飲む場でのお酌、デュエットなどの強要」が最も高い。各項目の男女比を見ても、加害者は圧倒的に男性が多く、その中でも「⑵　お酒を飲む場でのお酌、デュエットなどの強要」については、男性のほぼ 7 人に 1 人が加害経験があることになる。

次いで、「⑴　繰り返し行われる性的な言葉によるからかい」（女性 0.8%、男性が 7.1%）、「⑶　身体への不必要な接触」（女性 0.3%、男性 4.0%）、「⑷　交際の強要」（女性 0.3%、男性 1.8%）、「⑸　性的な関係の強要」（女性 0.3%、男性 2.2%）と続いている。

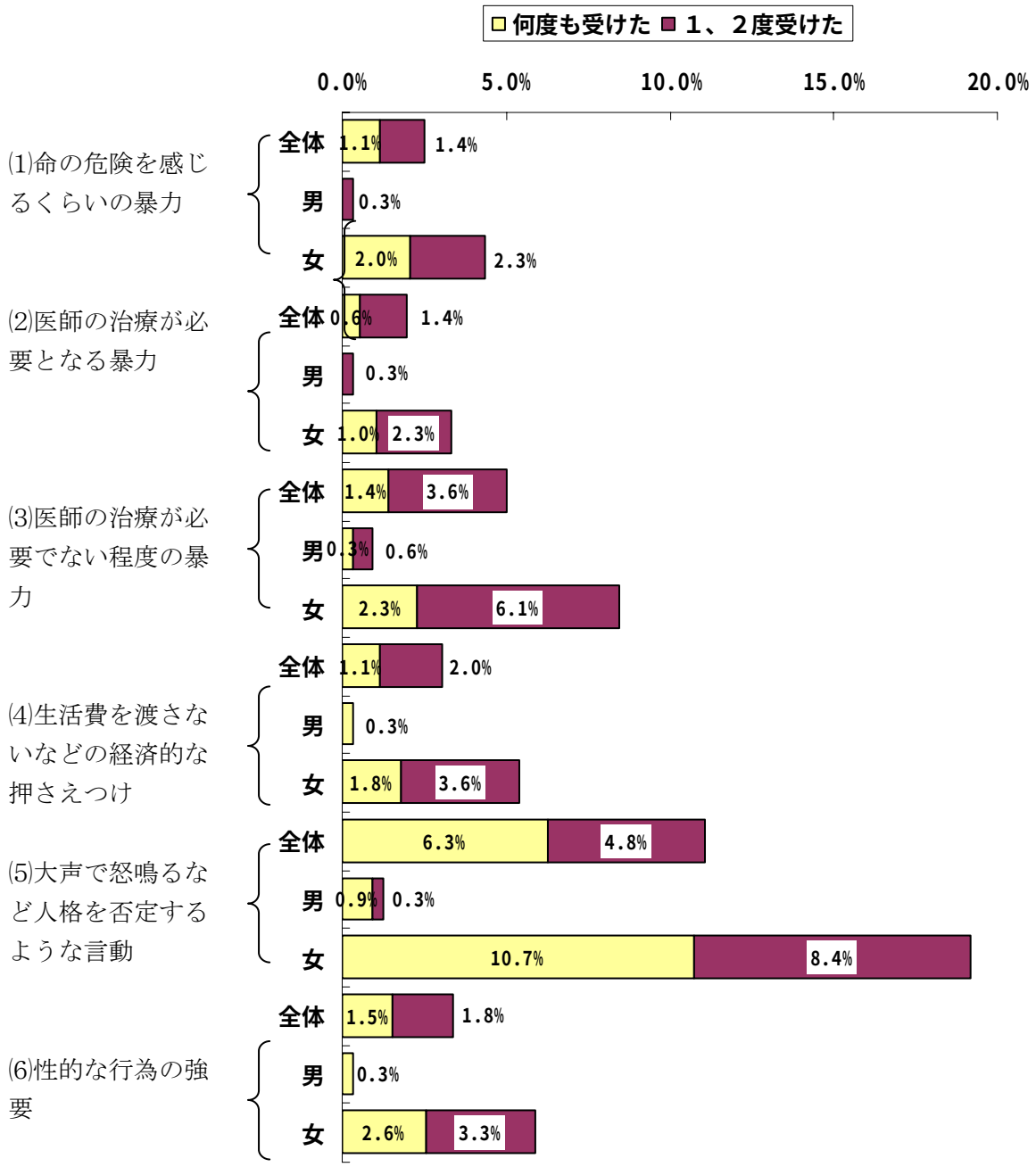
**問 15-1　なぜ相談しなかったのか（できなかったのか）あてはまるものすべてに○をつけてください。**




相談しなかった理由については、女性、男性ともに最も多い回答は、「相談するほどのことではないと思ったから」（女性 65 人、男性 9 人）で、他の回答を大きく上回っている。

男性の場合は、その項目以外はすべて 2 人または 3 人と差がないが、女性の回答では、「相談しても無駄だと思ったから」（29 人）、「相談することによって不快な思いをすると思ったから」（24 人）、「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思ったから」（18 人）と続いている。

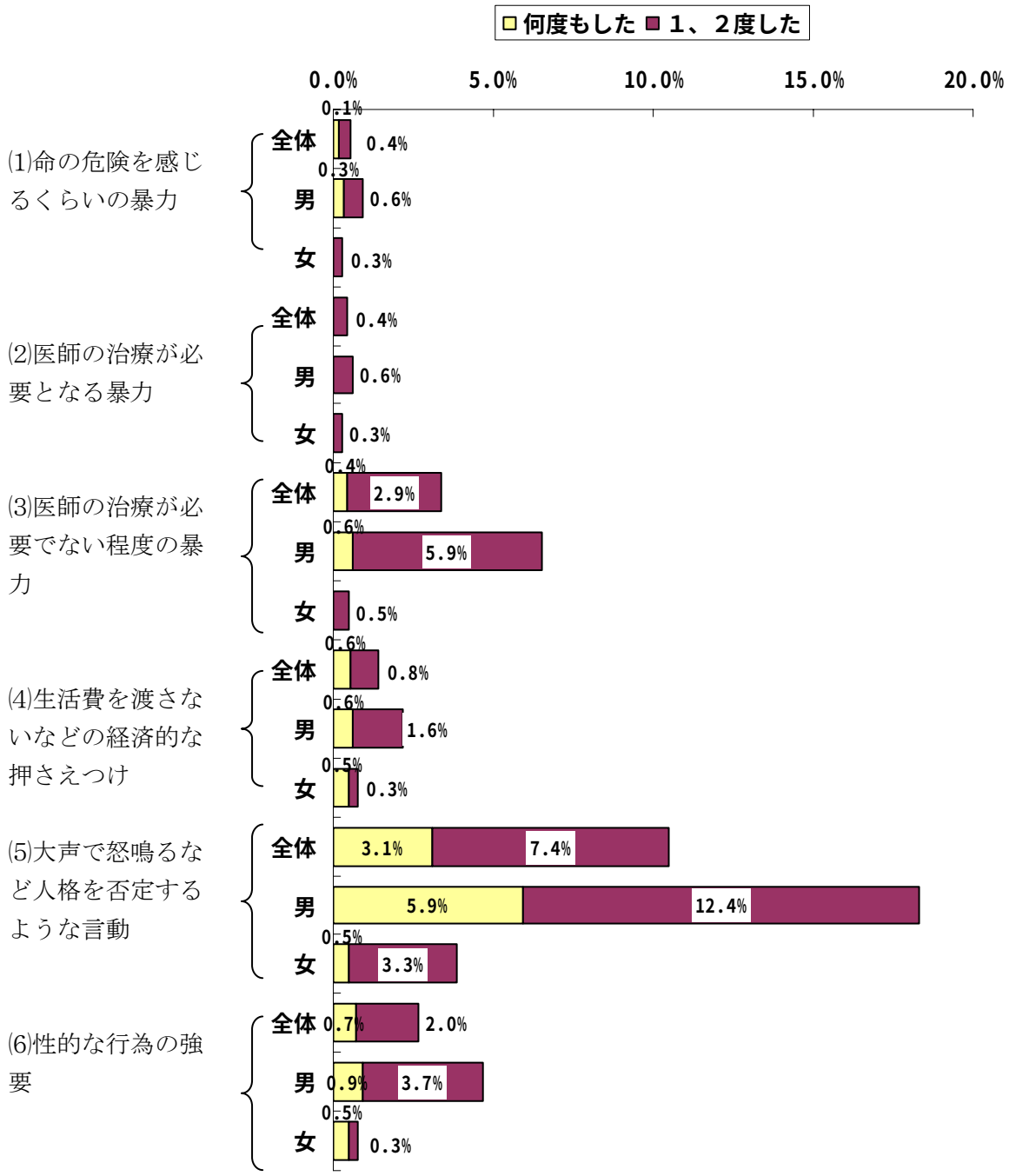
**問 16　あなたは、これまでに、配偶者（事実婚や別居、離別を含む）や恋人などのパートナーから、次にあげるようなドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）を受けたこと、またはしたことがありますか。それぞれあてはまる番号１つに○をつけてください。**




ドメスティック・バイオレンスを受けたことがあるかについて、各項目を比較すると、「何度も受けた」、「１、２度受けた」との回答が最も高かったのは、「⑸　大声で怒鳴るなど人格を否定するような言動」であり、全体で 11.1%、女性では 19.1%と、女性のほぼ 5 人に 1 人が経験していることになる。

次いで、「⑶　医師の治療が必要でない程度の暴力」（全体 5.0%、女性 8.4%）、「⑹　性的な行為の強要」（全体 3.3%、女性 5.9%）であり、次いで、「⑷　生活費を渡さないなどの経済的な押さえつけ」（全体 3.1%、女性 5.4%）が続いている。

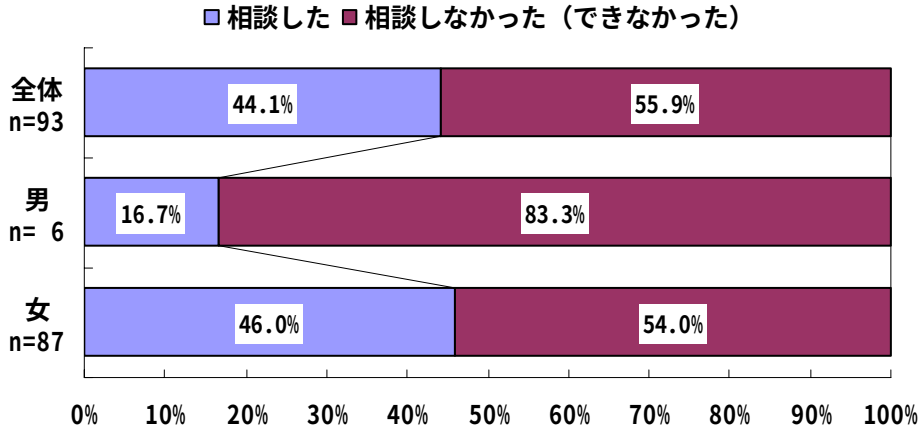
〔ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）をした経験〕




加害経験については、全体で、「⑸　大声で怒鳴るなど人格を否定するような言動」が最も高く、「１、２ 度した」が 7.4%、「何度もした」が 3.1%となっている。次いで、「⑶医師の治療が必要でない程度の暴力」が続いており、「１、２ 度した」が 2.9%、「何度もした」が 0.4%となっている。

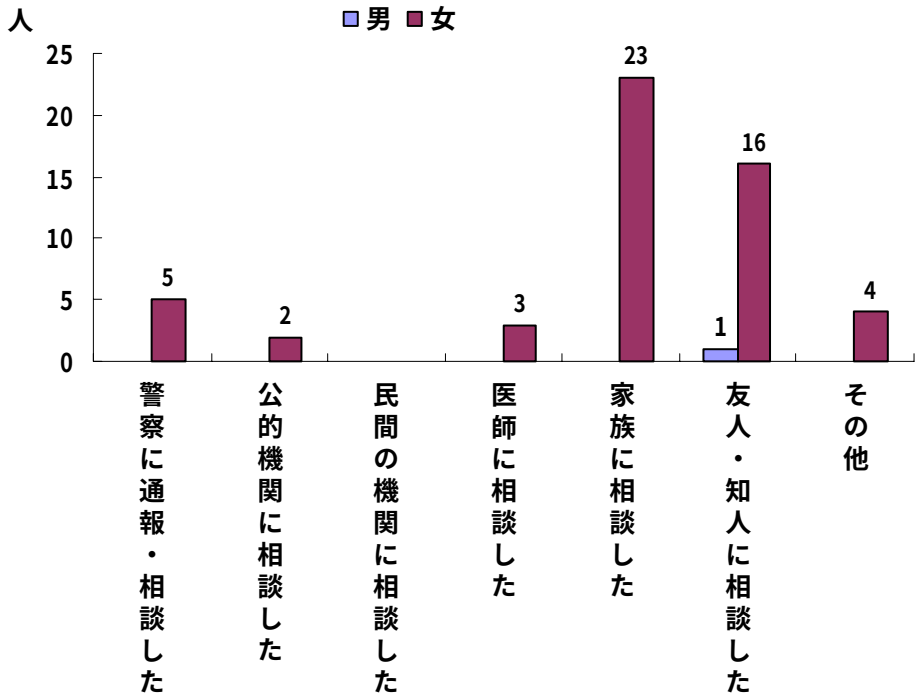
また、男女別を見ると、男性と比較して女性の加害経験のある者は少ないものの、男女ともに、「⑸　大声で怒鳴るなど人格を否定するような言動」が他の項目と比較すると非常に高く、「１、2 度した」と「何度もした」を合わせると、男性は 18.3%、女性は 3.8%である。

**問 16-1　あなたは、これまでに、だれかに打ち明けたり相談したりしましたか。**



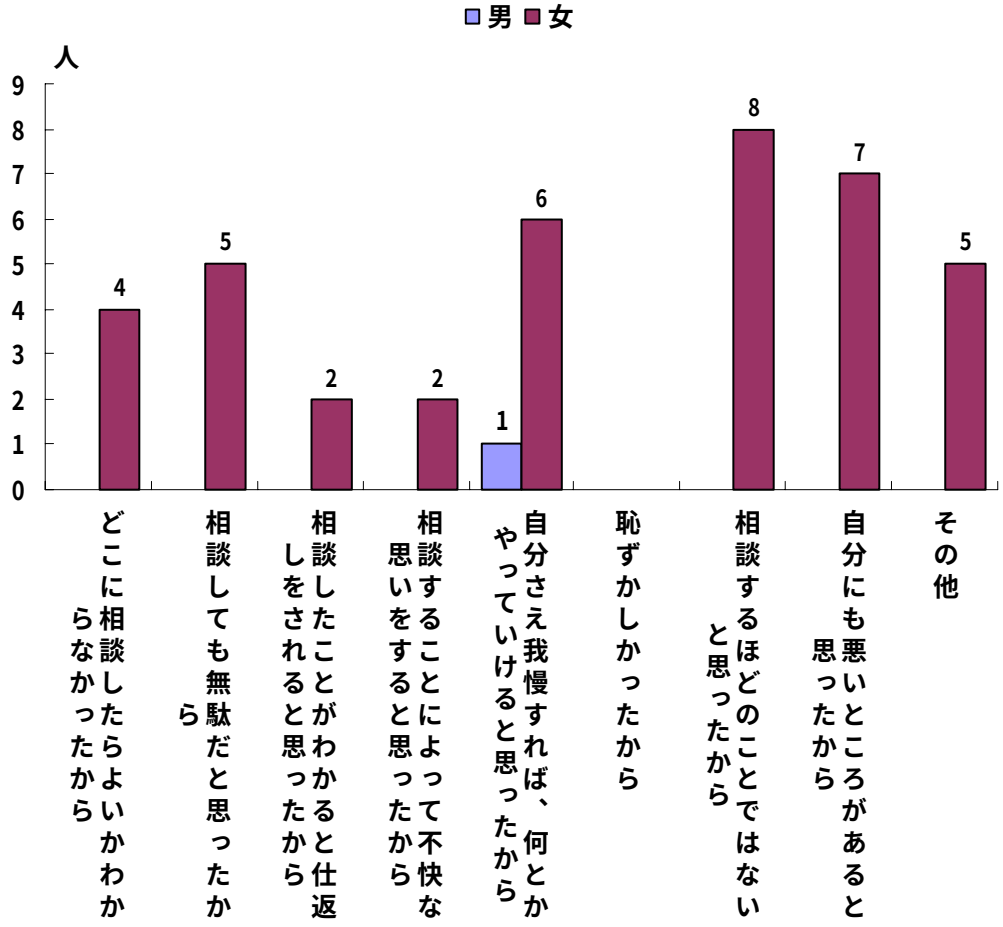

「だれかに打ち明けたり相談したりしましたか」については、被害経験者の 44.1%、ほぼ 2 人に 1 人が被害相談をしている。しかしながら、55.9%と過半数は家族や知人にも相談していないことになる。また、男女を比較してみると、「相談した」女性は 46.0%とほぼ 2 人に 1 人が相談しているのに対して、男性は 16.7%（1 人）しか相談をしていない。

**問 16-1-1　そのとき、どこに相談しましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。**




被害を受けた女性の相談先については、家族（23 人）、友人・知人（16 人）が圧倒的に多く、次いで、警察（5 人）、医師（3 人）、公的機関（2 人）である。また、男性の相談先は、友人・知人（1 人）となっている。

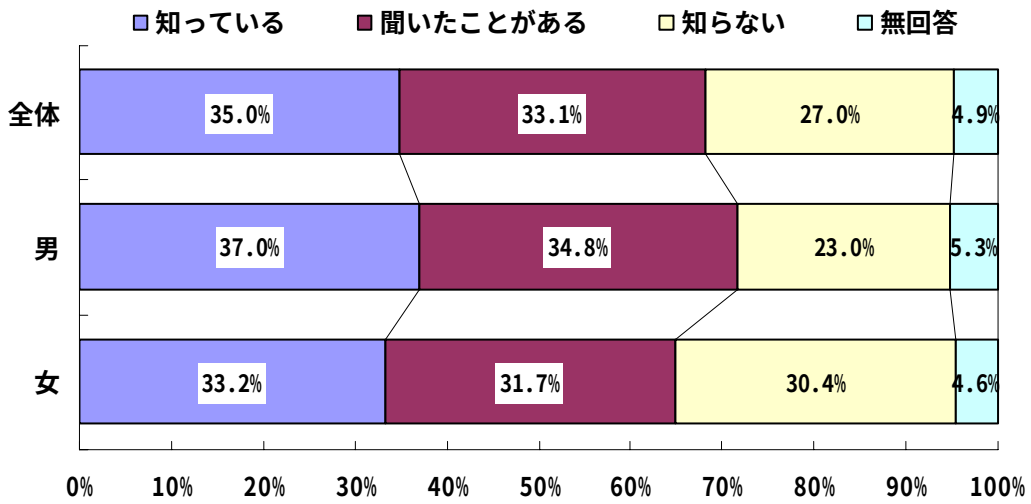
**問 16-1-2　なぜ相談しなかったのか（できなかったのか）あてはまるものすべてに○をつけてください。**




相談しなかった理由について最も多いのは、「相談するほどのことではないと思ったから」（8 人）、次いで、「自分にも悪いところがあると思ったから」（7 人）、「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思ったから」（7 人）、「相談しても無駄だと思ったから」（5 人）、「どこに相談したらよいかわからなかった」（4 人）と僅差で続いている。

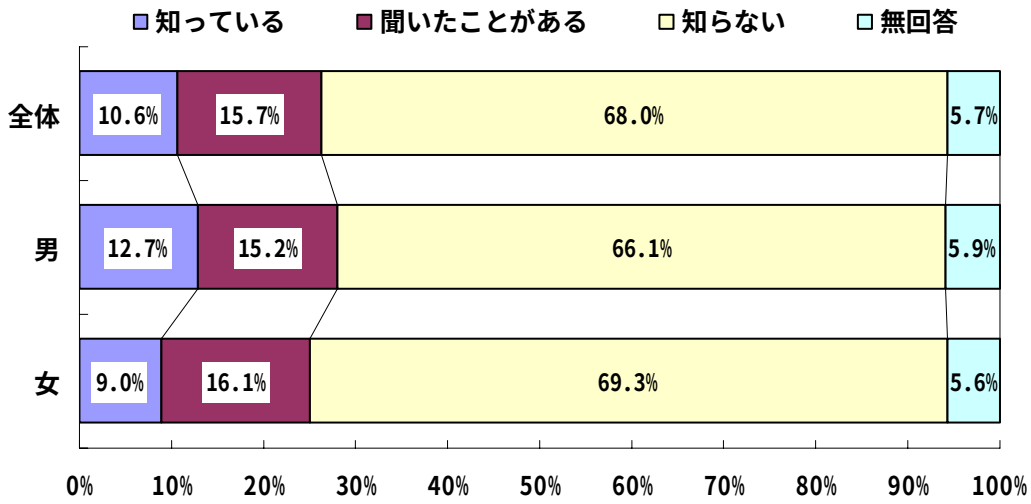
**問 17　あなたは、次の項目についてご存じですか。それぞれあてはまる番号１つに○をつけてください。**

### （１）「男女共同参画社会」という言葉



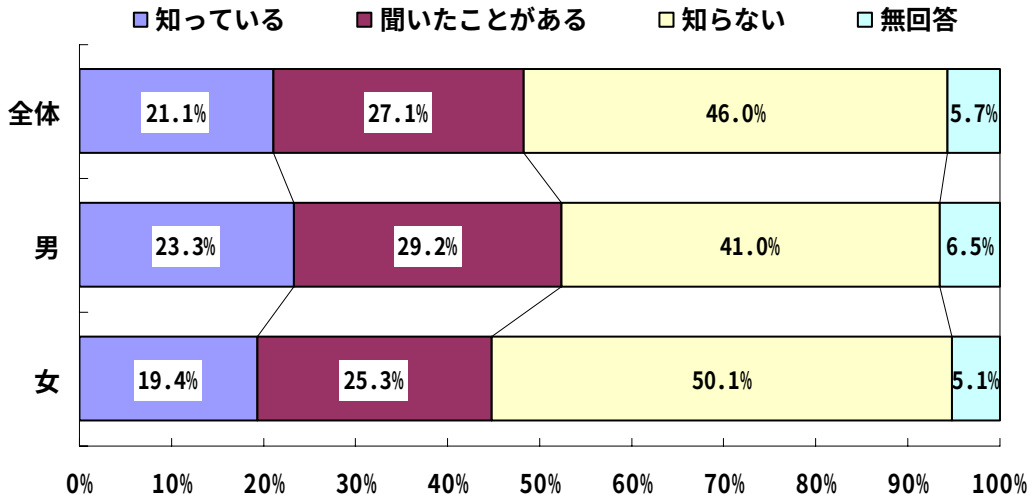

「男女共同参画社会」という言葉については、「知っている」「聞いたことがある」を合わせると 68.1%であり 7 割の人が知っており、一方、「知らない」との回答は 27.0%と、ほぼ 4 人に 1 人が知らないことになる。

### （２）「ジェンダー」という言葉



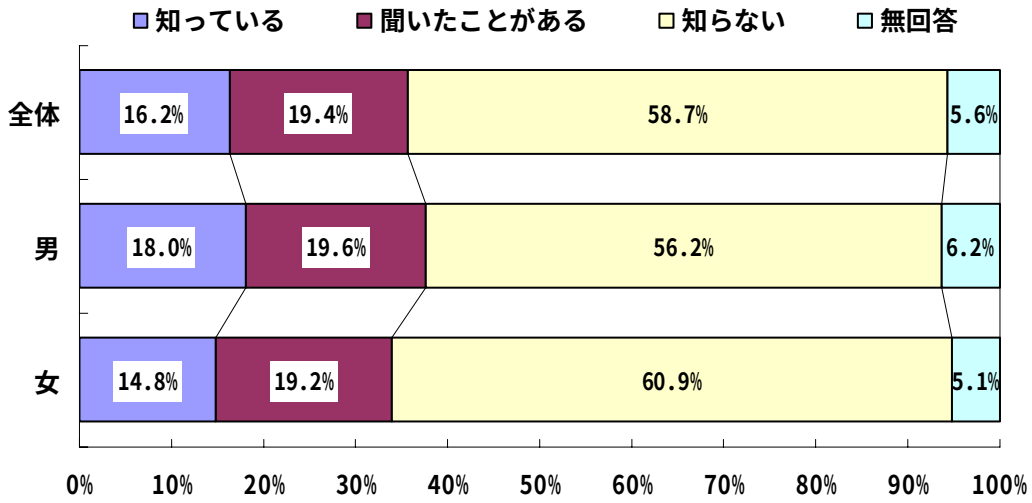

「ジェンダー」という言葉については、「知らない」が 68.0%と最も多く、「知っている」（10.6%）と「聞いたことがある」（15.7%）を合わせても、26.3%である。

### （３）「男女共同参画社会基本法」が制定されたこと



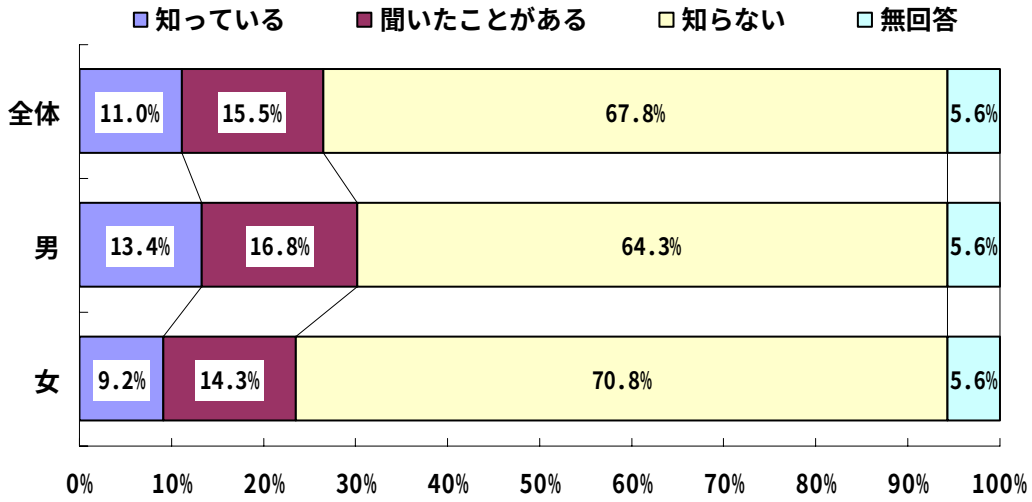

「男女共同参画社会基本法」が制定されたことについて、「知っている」「聞いたことがある」を合わせると、全体で 48.2%であり、一方、「知らない」との回答は、全体で 46.0%である。

### （４）会津若松市が「男女共同参画都市宣言」をしたこと



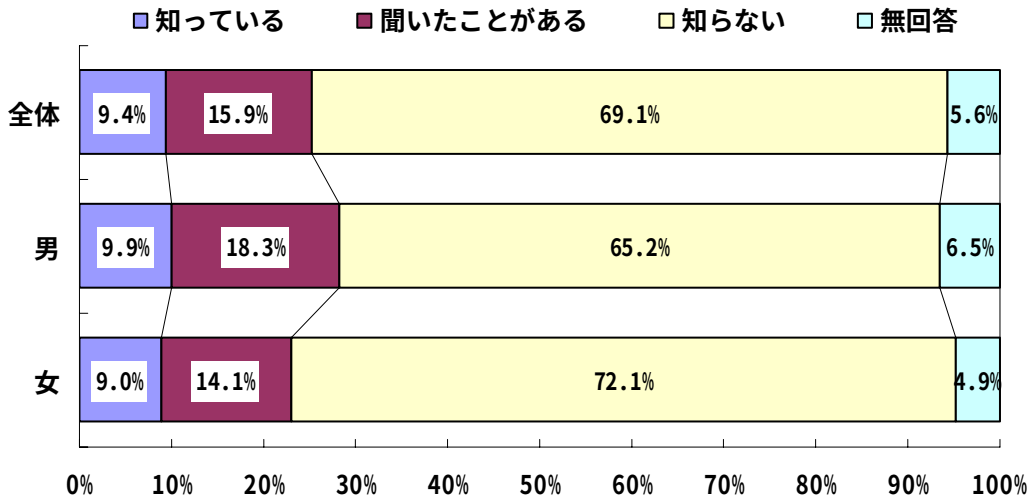

市が「男女共同参画都市宣言」をしたことについては、「知っている」「聞いたことがある」を合わせると 35.6%であり、一方、「知らない」との回答は 58.7%である。

## （５）「会津若松市男女共同参画推進条例」が制定されたこと



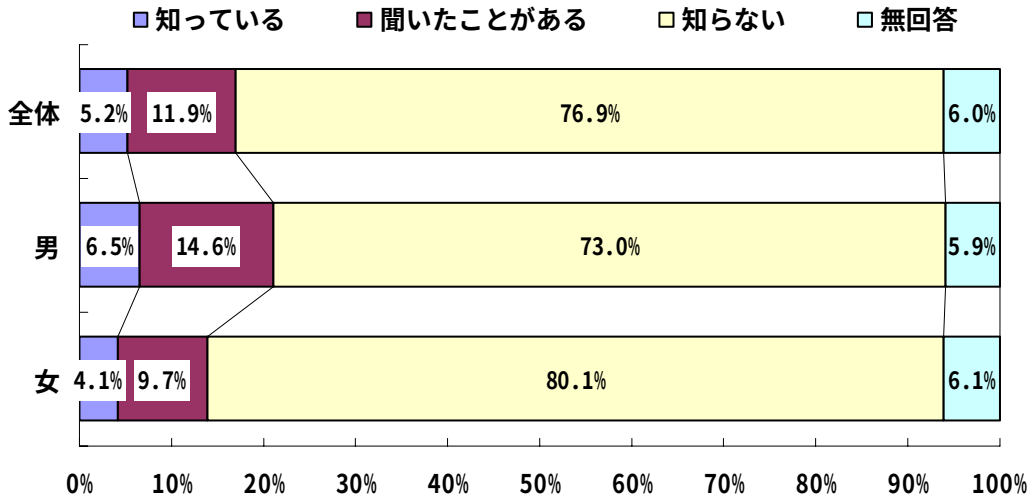

「会津若松市男女共同参画推進条例」が制定されたことについては、「知っている」(11.0%)、「「聞いたことがある」（15.5%）との回答を合わせても 26.5%であり、一方、「知らない」との回答は 67.8%である。

## （６）「会津若松市男女共同参画推進プラン」があること



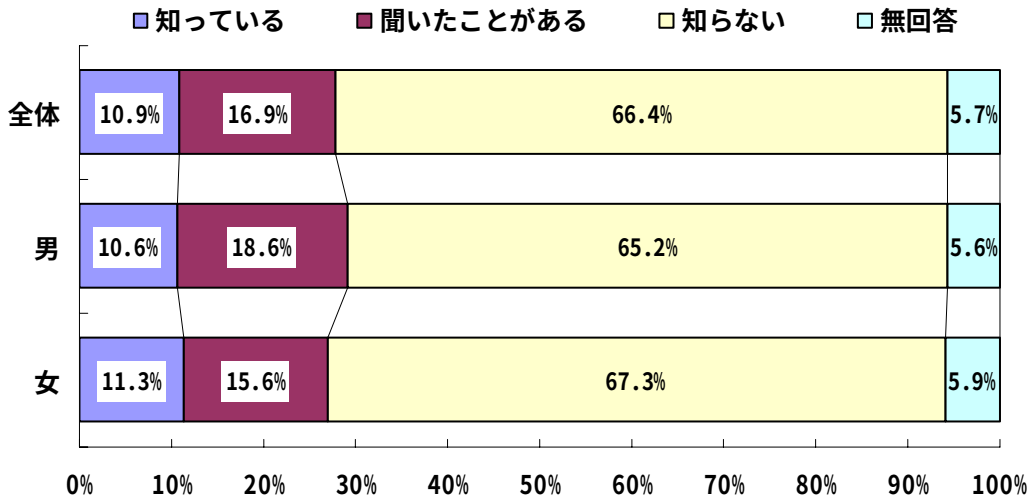

「会津若松市男女共同参画推進プラン」があることについては、「知っている」（9.4%）、「聞いたことがある」（15.9%）との回答を合わせても 25.3%であり、一方、「知らない」との回答は 69.1%である。

### （７）「会津若松市男女共同参画苦情処理委員会」があること



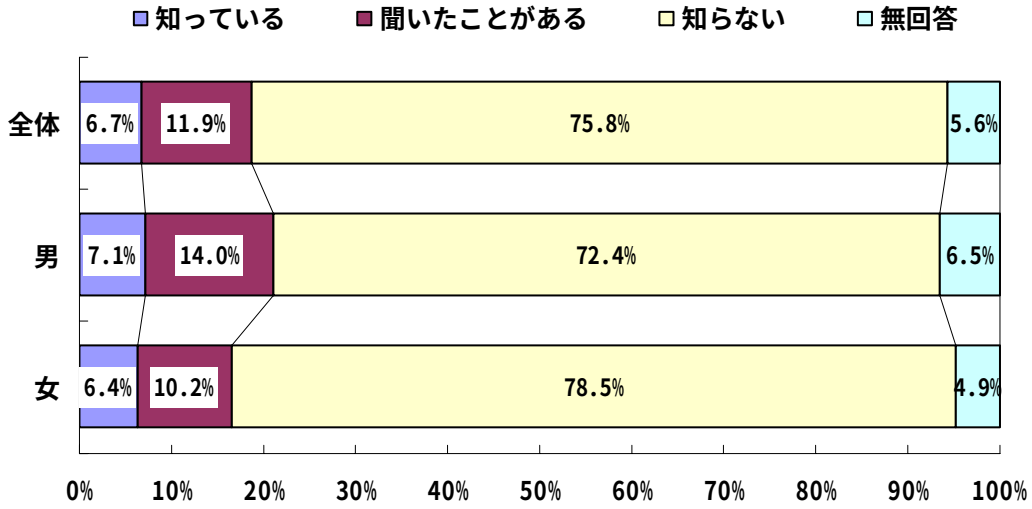

「会津若松市男女共同参画苦情処理委員会」があることについては、「知っている」(5.2%)、「聞いたことがある」（11.9%）との回答を合わせても 17.1%であり、一方、「知らない」との回答は 76.9%である。

### （８）市が男女共同参画の各種講座を開催していること



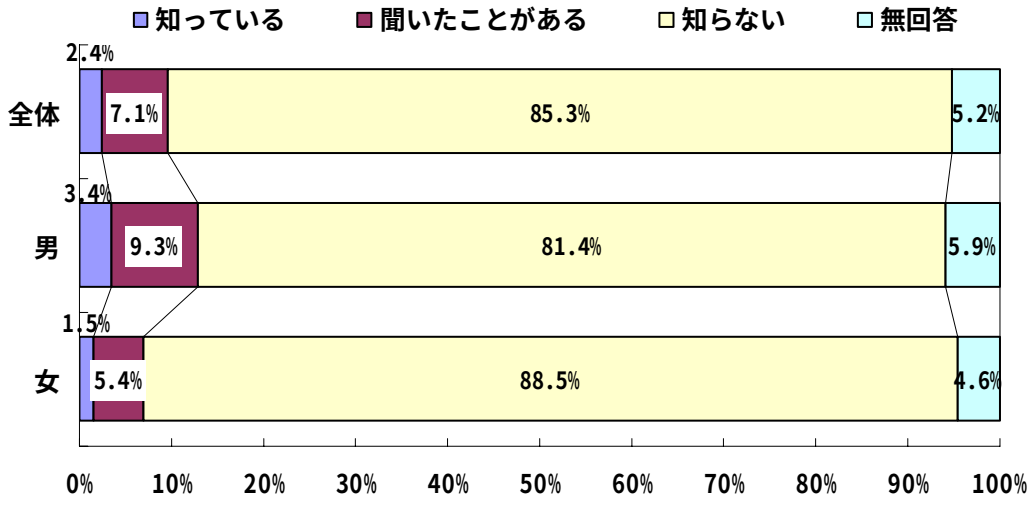

市が男女共同参画の各種講座を開催していることについては、「知っている」(10.9%)、「聞いたことがある」（16.9%）との回答を合わせても 27.8%であり、一方、「知らない」との回答は 66.4%である。

### （９）市が男女共同参画情報紙「ぱーとなー」を発行していること



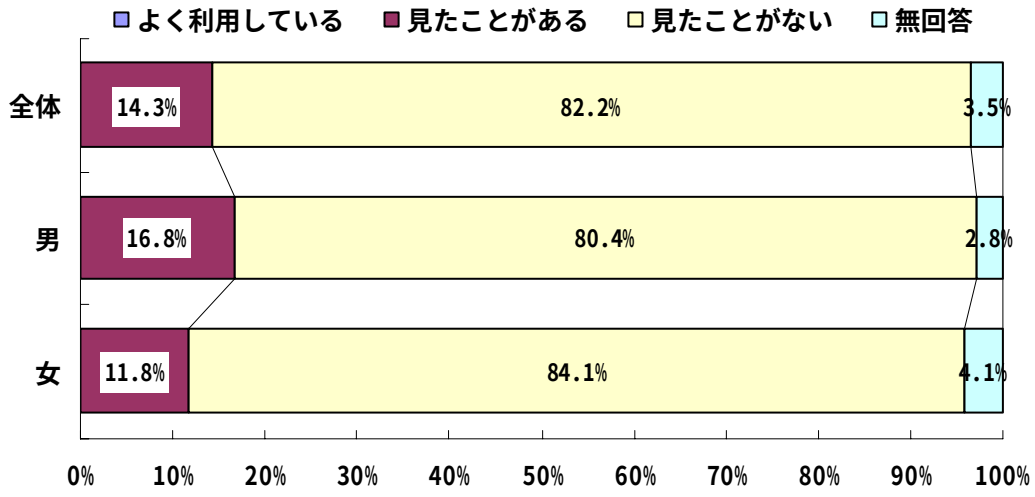

市が男女共同参画情報紙「ぱーとなー」を発行していることについては、「知っている」（6.7%）、「聞いたことがある」（11.9%）との回答を合わせても 18.6%であり、一方、「知らない」との回答は 75.8%である。

### （10）市が男女共同参画情報メールを配信していること



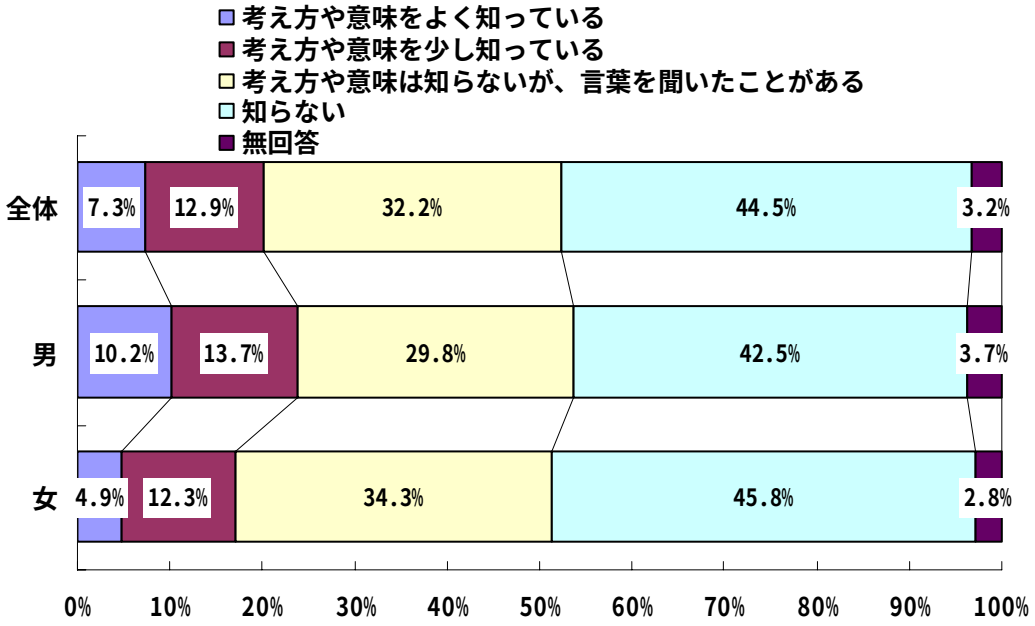

市が男女共同参画情報メールを配信していることについては、「知っている」（2.4%）、「聞いたことがある」（7.1%）との回答を合わせても 9.5%であり、一方、「知らない」との回答は 85.3%である。

**問 18　あなたは、会津若松市のホームページの男女共同参画のページをご覧になったことがありますか。あてはまるもの１つに○をつけてください。**




市のホームページ（男女共同参画のページ）を見たことがあるかについては、「見たことがない」と回答した人が 82.2%である。一方、「見たことがある」と回答した人は 14.3%と７人に１人であり、「よく利用している」と回答した人は男女ともにいなかった。

**問 19　あなたは、ユニバーサルデザインについて知っていますか。あてはまるもの１つに○をつけてください。**




ユニバーサルデザインについては、「知らない」（44.5%）が最も多い。次いで、「考え方や意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」（32.2%）、「考え方や意味を少し知っている」（12.9%）、「考え方や意味をよく知っている」（7.3%）と続いている。

男女を比較すると、男性は、「考え方や意味をよく知っている」（10.2%）、「考え方や意味を少し知っている」（13.7%）を合わせると 23.９%であり、女性は、「考え方や意味をよく知っている」（4.９%）、「考え方や意味を少し知っている」（12.3%）を合わせると 17.2%となり、男性の方が 6.7 ポイント高い。

## その他の回答・自由意見

| 問７　子どもの教育（女子） |
|---|
| 子ども自身の選択肢に任せる　（×16 名） |
| **問７　子どもの教育（男子）** |
| 子ども自身の選択肢に任せる　（×16 名） |
| 本人の能力次第　（×2 名） |
| **問８　女性が職業を持つことについて** |
| 職業をもっても持たなくても、自由な選択と生活が成立する社会が良い |
| 本来は、女性は職業を持たない方がよいと思うが、それでは生活できないので働くしかない |
| 職業を持つことができる状態であれば、仕事は続けるべき、また、生活のために仕事をしなければいけない場合も仕事は続けるべき |
| 子どもができたから、できないから、できるまでとか、女性だからとか尋ねることはおかしいと思います。これを男性に置き換えてみたらどうか |
| 本人の希望次第 |
| 職業によると思う |
| 男女問わず、自分のできることをやり、自分に責任を持って生きるのが良いと思う。職業の有無ではないと思う。 |
| その人がしたいようにすれば良い |
| 職業の状況（勤務条件等）もあり、一概に言えるものではない |
| 女性がその仕事をやりたいのであれば、結婚するしないに関わらず、やっていて良いと思う |
| 女性だからという考えはない |
| ケースバイケースで、女の人がというより男女とも個人の考え方に任せたほうが良い |
| 個人個人の考えによって違います |
| 職種や家族構成、家庭の事情による |
| 自分も二人目までは、子どもが数ヶ月のうちから保育園に預け働いていたし、女性もずっと仕事を続ける方がいいと思う反面、子どもにとってはどうなのか悩むところです |
| 自分の生き方を考えれば、「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」であるが、子育てを考えると、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」 |
| 子どもが小さい時は、なるべく子どもに重点を置ける仕事に就いたら良いと思う |
| それぞれの家族のあり方なので、何が良いとは一概には言えない |
| 就職も再就職も、その時の環境に合わせて自由に選択できるのがよい |
| その人その人に能力に応じて決めることで、答えは一つではない。育児と仕事がきちんと両立できる人はすれば良いし、できない人はしなければいい。育児も大事な仕事の一つである |
| 何がよいとは言えない、人それぞれの考え方だと思う |

| |
|---|
| ケースバイケースで、その人の都合に合わせて |
| 仕事と家庭が両立できるのなら、続けるべき |
| **問12　現在の家庭生活についてどのように感じているか** |
| 楽しみがない　（×2名） |
| イライラする |
| 明るく楽しい時もある |
| 生活にハリがない |
| 先の人生を心配している毎日です |
| 疲れるが適度に自由に生活している |
| 疲れはするが楽しい |
| 不安 |
| 適度な生活 |
| 気が抜けない感じ |
| 1人なので不安だ |
| 介護者がいるから大変 |
| **問15-1　セクシュアル・ハラスメントを受けたとき、なぜ相談しなかったのか（できなかったのか）** |
| 相手が夫だったから |
| 相手の中に多少なりとも誠意ある愛情が感じられたから |
| 自分で解決した |
| **問16-1-1　そのとき、どこに相談したか** |
| おじさんに相談した |
| 姉妹に相談した |
| 弁護士、司法書士 |
| 悩む程ではないので、びっくりしたと友人に軽く話した |
| **問16-1-2　そのとき、なぜ相談しなかったのか（できなかったのか）** |
| 忙しいから |
| 相談するだけの余裕がなかった |
| こういう性格で、いつもの事だから |
| 自分で解決した、相手を放っておいた |
| **問18　市のホームページ（男女共同参画のページ）を見たことがない理由** |
| あることを知らなかった（×71名） |
| パソコンがない（×54人） |

| |
|---|
| ホームページを見たことがない（×12名） |
| 必要性がないため（×10名） |
| 忙しくて見れない（×6名） |
| 自分の住む市の情報を調べる機会がない（×2名） |
| 市の情報は、市政だよりを読めば十分であると感じていたため |
| 今、はじめて分かったので、これから活用したい |
| 実行されそうにない企画が多すぎる |
| 普段はあまりネットを使わないため |
| **自由意見** |
| 伝統を守る良さとともに、男女の健全な係わりかたについて（歴史や他の地域での試みに学びながら）、子ども世代からしっかり学ばせていくように力を注いでいけたらと思う。 |
| 押し付けではない、本人の希望することができる社会づくりを目指すことが大事。 |
| 男女共同参画という言葉を始めて知り、会津若松市も様々なことに取り組んでいるんだなと感心しました。まだ私のような知らない人がほとんどだと思うので、積極的に「男女共同参画」をPRして欲しい。 |
| 会津若松市の男女共同参画は大分以前より進めてこられ活発に意見交換をされたり実行に移してこられました。現在のスタッフの皆さんも素晴らしい人ばかりで、今後の活動にも定着性を感じられます。皆様方のさらなるご活躍をご期待いたします。 |
| お母さんたちが仕事をしながら安心して子育てができる環境が必要である。24時間営業の託児所、その託児所から半径500m以内に小児科があれば随分助かると思う。父親も協力して育児をこなすのは当然であるが、どちらも午後の5時～6時に迎えに行けない時もあると思う。そんな時に24時間であればどんなにいいだろうと考えたことがある。結局、子育てのために仕事をあきらめざるを得ない母親のなんと多いことか。ヨーロッパの福祉国家のように子どもが3歳までは育児に時間を割いてもらって、その後は前の職場に普通に復帰できる体制が整えられたら、どれだけ社会全体の発展につながるか。<br>現在60歳から57歳の人たちは「元気な世代」である。仕事も現役に負けずにこなせる気力も体力もあると思う。こういった予備役の人たちを活かせないものかと思う。<br>大切なことは性に関係なく、それぞれがそれぞれの能力を発揮できる環境をつくることだ。会津若松市がその模範となる市となったら素晴らしいと思う。 |
| 今後、男女共同参画についてできる限り勉強していきたい |
| 初めて知ったので、今後認識を新たにするとともに、興味を持って見たいと思う。 |
| 仕事で一日の大半職場にいるので、職場の方で見れるパンフレットを作成して欲しい |
| 私自身、主人や子どもに恵まれ、現在の仕事も 14 年目に入り、とても充実した生活をしております。これからはお互い年をとっていくわけで、どうなっていくか分かりませんが、何か参考になることがあると思いますので、男女共同参画の広報、宣伝をしていただき、参加できる行事等があったら教えていただきたい。 |
| 今回のアンケートを機会に「男女共同参画」を勉強したいと思います。 |
| 男女の役割は、それぞれに特徴があり、上手い組み合わせで社会が充実することを望む |

| |
|---|
| 全く知らなくて恥ずかしい思いです。時代の流れで、今答えた以上のことがあったかも知れません。しかし世の中は変化しています。互いに助け合いの心をもっていくことが大切なことだと思います。 |
| 子どもも独立し夫婦のみの生活をしています。少しでも社会との結びつきを大事にしようと地域等の行事に参加し、趣味を通して友人を多く持つようにしたりして楽しんでいます。しかし、主人は無趣味で何にもあまり関心を持ちません。気軽に参加できることがありましたら情報を流してください。 |
| 自分にあまり必要と感じていない人が多いのではないでしょうか。知らない人もいますし… |
| 60 代、70 代になりますと、自分の健康にばかり気をとられ、地域社会のことは若い人に任せようと思うようになります。まだまだ、女性の方は職業をもって家庭をうまくこなしていくことは難しいと思っています。やはり、男性の意識の持ち方が大事なことではないでしょうか。知識ばかり走って、頭でっかちになり行動が伴わなくては、何事もうまくいかないのでは… |
| 就職に関して言えることは、「男女問わない」と明記してあっても、実質、女性は不用な職種などもあるため、平等だけで良いわけではないこともあると思う。 |
| 仕事をしていると、男女共同参画のいろいろな企画があっても参加できない状態です。年間の計画ができているのなら、前もって市政だよりなどに載せて欲しい。子どもが小さいと出かけるのにいろいろ大変で、せめて参加している間だけでも子どもの世話などをしてくれる方、または、遊ぶところでもあれば参加できそうです。 |
| 「男女共同参画」という言葉を知りませんでした。このアンケートを見て始めて知りました。 |
| まず、個々の教育から改善しないとダメ。小さい頃からの教育が、男女の格差を生み出していると思います。 |
| 何でいまさら男女共同参画なのか。基本的人権で十分に理解しているので家庭では当然のごとく行っている。男だから、女だからの区別はあえてしていない。お互い人間として、人格を尊重、互いに助け合い喜びと感謝の生活を心がけている。 |
| 「女性は家事をするもの」という意識が男に根強く、共働きの場合は協力を得られず、女性は疲れている。育児については、女性が忙しいときは子守をするが、グズルと「ハイ、ママー」といって面倒を見ないことに不満がある。私の場合は年齢的にすべて終わったが娘が共働きで生活していて上記のような状態が同じように続いている。<br>会津若松市の企画は立派ですが、男性の意識を変える具体的な企画がなされてないように思う。パンフレットやポスター、市政だよりにカラーで掲載などを企画して欲しい。<br>共働き支援、子育て支援をもっと前面に市の方針として打ち出して欲しい。母子家庭が増加しています。前夫が養育費を払わないケースが起きています。子どもを育てながら働いている母親は経済的にも大変です。市営住宅など決められた募集日だけでなく、事情によってはすぐ入所できるようにして欲しいものです。 |
| 参加しやすい雰囲気づくりが大事だと思う。 |
| 若い世代は学校教育の中で男女共同参画の意識が高まっていると考えるが、中高年代はまだまだ意識は低いと思う。しかし、中高年代の考えを変えることは難しいので、今後は、若い世代に対してアプローチしていくことが大事である。 |
| 第 6 次長期総合計画新生会津を見て初めて知りましたが、「市政だより」の中でも動きを入れて欲しい。市民が良く分かりやすい方法を考えて欲しい。 |
| 必ずしも平等である必要はない。男と女の時点で違うものであり、人という同じものであるから、必要以上に平等を進めることにならない様に気をつけて欲しいと思う。 |

| |
|---|
| 男女共同参画を進めることに対しては良いことだと思うが、女性の立場の尊重のみが前面に出て、男性でも離婚して子育てをしている私にとって、母子家庭と父子家庭のいろいろな制度（手当てなど）に差があることが納得できない。本当に男女共同参画であれば、すべてが男女ともに平等であるべきであると思う。<br>また、私は大阪から引っ越してこの会津の地に住んでいるのだが、このような保守的な色合いの濃いこの地では、男女共同参画については根本的に相当厳しいと思う。<br>あくまでも、私個人の意見だが、男女平等など、また女性の社会進出が当たり前になってきた頃から、母親の子育ての放棄、暴力、自分の子どもに対する愛情のなさからの事件など、女性が母親というよりも１人の女として生活をしているため、耳を疑うような、目を覆いたくなるような事件などが起きていると思う。これがすべてだとは思わないが、規則や条例や法律で決められるものではなく、やはり昔からの先人の慣習が一番大切ではないかと思う。行政と民間では考え方や実際のこととの開きがありすぎる。 |
| 男女は同権ですが、同質ではないと思っています。その点を含みながら進めていくほうが良いのではないか。 |
| 何をするよりもゆとりがないと始まらないと思います。この頃年金が減り、税金が上がった、ガソリンが上がったなど、生活が苦しくなっています。もう、みんなギリギリで生活しています。男女共同なんて言っていられないくらいです。若者は働くところがないと切実に思っています。だから東京へ行くのです。まずは、就職や年金などお金の面のゆとりがないと、なにも始まらないと思います。 |
| 私は、男女平等だからといって全てを同じにする必要はないと思っています。もともと身体も心も違っています。それぞれの特性を活かしたことをやればいいと思っています。最近、「・・・なのよ」等のひびきが優しい女性言葉がなくなっており残念です。また、意志の弱い男が増えている様に思います。男らしさ、女らしさを活かしたうえでお互いを尊重すれば良い。「男らしさ、女らしさ」を議論する会等もいいと思います。 |
| 女性の育児休暇についてですが、女性は休暇制度を利用できるが男性は利用できない就業体制が多いので、男性でも、育児への協力ができるような就業体制になって欲しいものです。 |
| 男女共同参画の活動自体、今回のアンケートで初めて知りました。住んでいながら、会津若松市のホームページを見たことがなかったと思いました。これを機会にどんな活動があるのか見てみたいと思います。 |
| 私の経験上の意見ですが、女性にしかできないことは、出産と乳幼児期の母性の必要性？くらいであり、これ以外は、男性女性区別なくできることではないかと思います。<br>家庭のことも、社会的なことも日常バランスよく分担して、誰か 1 人に負担ばかりが重くならないよう、皆でサポートしていけば良いと思います。<br>昨年息子が男女共同参画の作文で賞をいただきましたが、残念ながら会津若松市の人は、「家のことは女がやるもの」という意識が根深いことが逆に良く分かりました。こういった意識を変えなければいけない…かというと、それはそれで良く、家のことを一生懸命やることをきちんとやっていただき、世間からも「家のことをやる」仕事が、社会に非常に貢献しているんだと評価されることになれば良いと思います。職業を持つことばかりが、社会的に評価されるのもおかしいのではないかと思います。男だから…女だから…こうあるべきなどというのではなく、責任ある社会人として、バランスよく社会に貢献できるまちづくりを企画していただければ良いのではと思います。 |
| ずい分進んできたと思いますので、急でなく少しづつ進めたらよいと思います。 |
| 今までも何度か行っているのでしょうが、終わったあとに報告を聞かせて欲しい。 |
| 一般の人たちに、もっと分かりやすい説明が欲しい |

| |
|---|
| 男女共同参画に関する研修や講座を開催することで広報活動を広く実施してください。 |
| まず、市民にもっと企画を意識してもらう働きかけが必要と考えます。このアンケートを答えていても目的や姿勢がなになのかあまり分からないです。 |
| 「男女共同参画」を目指すことと、男らしさ、女らしさを否定することは全く別の次元だと思います。男女が同じ仕事をして同じ結果を出すことだけにこだわっては、単に性を無視しているだけになるのでは？ユニバーサルデザインにもつながりますが、互いの立場を思いやることができれば、自然と男女の格差がなくなっていくと思います。中学校、高校までに、互いの違いを正しく認識させ、尊重することをきちんと教えるべきです。根がなければ木は育ちません。 |
| 働く 30～40 代の男性に対して周知徹底する。この年代の男性は、市政だよりや広報紙に目を通す暇もありません。<br>他市町村の取組み例としては、休日の街頭ＰＲや通勤時間等、警察官と伴に車を停止させ一般路上やインター入口などでのティッシュ広告配りなどがある。 |
| 男性は、女性をいたわりかばう心を養う。女性については、男性を立て一歩引き下がる。お互いに譲り合い自己主張をしないことが肝要 |
| その前にもっとやるべきことがあるのでは |
| 会津若松市が積極的に男女共同参画に取り組んでいるのがよく理解できました。知らない部分が多かったので、市政だよりなど情報紙など意識して読むように心がけたいと思います。<br>女性の仕事への意識については、自分自身は長女が1歳半まで共働き（保育所に預けて）をしましたが、自分で育児をしたいという思いから仕事をやめ、子育て、家庭に専念したという経過があります。現代の女性からは、批判があろうかと思いますが、振り返ってみて、子どもも今は社会人となりましたが、子ども優先にしてきて良かったと思います。子育てが一段落してからでも、仕事は遅くないと思います。 |
| まず、市の職員の男女比率を 50％にするよう取り組んでもらいたい。<br>すべての分野で半分半分とはならないと考えるが、それぞれに得意な分野があると考えるので、その分野ごとの男女比率を考慮しトータルで半々にするようにして欲しい。 |
| 質問内容や今までの知識から推測すると、男女共同参画とは、男女お互いの権利やせめぎ合いの様な印象を受けました。健全な社会とは、男女それぞれが尊敬しあい、ゆずり合う社会だと思います。男らしさ、女らしさといった日本の伝統や文化をむやみに否定せず、互いの特性を認め合い、尊敬しあえる文会を目指すべきだと思います。急な変化は、スローガンだけで市民にはなかなか受け入れられないような気がします。 |
| 知っている人が少ないと思うので（年齢が高いほど）分かりやすいＰＲをした方がよいと思う |
| 男性は男性の持ち前の特性を活かし男らしく、女性は女性の持ち前の特性を活かし女らしく、社会や家庭の中で、それぞれ協力しあい生きていく事ができたら良いと思います |
| 育児、介護など、どうしても女性が中心になりがちな為、市に求めることは、育児･介護に関するサービスや助成をもっとっ充実させていただけたら、女性も自分の時間が少し増え、男性と共に働き、社会へ貢献する機会が増えると思います |
| アンケート調査の対象者を、ある程度年齢をきって行った方がよいかと思います。 |
| 男性だから女性だからという意識を変えていくことが大事だと思います。 |
| 文字を並べただけの説明ではなく、分かりやすい説明であれば理解できるのではないでしょうか。全員が分かるということは難しいと思います。市民のために頑張ってください |
| 男は男、女は女の立場をわきまえて生活を楽しくすること |

| |
|---|
| 現在、育休中ですが、育児においても、もっと夫の協力があってもよいと思っています。平等に育児をすべきなので、夫の育児休暇など、育児のための体制を整えて欲しい。そうすれば、もっと女性が社会参加の機会も増えるのかもしれない<br>家事の分担を男女が平等にするような働きかけを考えてください。男は何もやりません、威張っています。女性が何かと、家庭の都合でがまんを強いられ、社会への参加の機会をなくしていると思います。家の中での平等を進めるべきです。 |
| 日々の生活に流され目の前の事柄を片付けていくのが精一杯で、この問題については、私の場合、常に意識の外にありました。私のような市民も他に沢山おられるのではないかと思います。<br>先ずは、全ての市民の意識の中に、この言葉の意味とその重要さが植え付けられるべく方策に頭を絞るべきとは思いますが、本当の意味の「男女共同参画」の内容を予備知識として分かり易く、パソコンを使えない人も知る（理解する）ことができる方法があれば興味もわくのでは…と思います<br>市政に携わっておられる方々が、この計画を推進されようとしている時に、スタートの所でマゴマゴしている私のような市民が沢山いることも知っていただきたいと思います |
| 私の知る限り、家庭生活では（特に共働きの家庭）、女性の労働（家事）が男性に比べて、まだ比重が重いように見ています。男性が妻に協力し家庭生活が円満に行くよう願っています<br>若い人は簡単に離婚し、女性は実家に入るか、又は、1人でアパートで子どもを育て、別れた夫の代わりに他の男性と生活している現状をよく見受けます。子どもの成長上、好ましくないと思いながら見守っている現状です。 |
| 大きなくくりでは、皆が理解できていると思うが、小さなくくり（職場や住んでいる地域）では、個々の力関係が働いているため、その人の考え方が変わらないと難しい |
| なかなか男性は、自分から参加するために情報を集めたりしないので、父親が子育てに関心を持つような、より参加しやすいイベントを企画したらどうか<br>また、女性が働くこと、集まりなどで夜出かけたりすること、休日に出かけることなど、世代の上の人にもっと理解して欲しい |
| 会津若松市に転入し3年目になります。恥ずかしながら、市の取組みに関しての広報など、日頃からあまり見ていません。いくら市で一生懸命発信しても受信する側が受信しないとどうしょうもないですね。<br>対策を考えてください |
| ・アピールが少なく、承知の市民が少ないと思う<br>・市は力を入れていると思うが、市民に全く伝わっていないと思う<br>・現在でも、男女の差別は残っているが、男女共同参画を理解することは困難 |
| 身体のつくりが違う以上、男女がまるっきり平等になることは難しいと思います。例えば、力仕事は男性が優遇されるし、子どもを産むのは女性です。それを踏まえたうえでの国づくりが必要だと思います |
| 先ずは、教育分野で男女共同が当たり前という価値観、男はこう、女はこうではなく、いろんな考えの人がいることなどを教えるべき |
| 男女共同参画セミナーに何度か参加したことがあります。いろいろな人の話を聞く機会があれば真剣に考えたりできるので、今後も、セミナーなどを開くことは良いと思います |
| あまり知らないので、もっと情報が欲しい |
| 女性も働きやすくなるよう、保育所及び介護に対する負担を軽減して欲しい |
| 苦情を受け付ける窓口が欲しい<br>問題のある企業には、指導して欲しい |

| |
|---|
| 職場において、「女は早く帰れるからいい」とか、「これは男がやることだ」という意識ではなく、「子どもに手のかかる時期」、「責任を負わねばならない世代、あるいは立場」というふうに意識を変えるべきだと思う<br>地域の中でも、特に 60 歳以上の年代の人たちは、よその家のことでも「男なのにあんなことをやらされている」、「女なのにやらない」と実に細々とやり玉にあげている。個々の家庭内のことに干渉するのはいかがなものでしょうか<br>「市政だより」は、殆んど関係ないと思ったところは読んでいないようなので、音声による啓発の方が効果的ではないでしょうか |
| 男女共同参画を私をはじめ知らない人が多いと思われます。全市民が理解できるような広報等があっても良いのではないでしょうか |
| 自分は全く知らないので、もっと広報活動をして欲しい |
| いろいろな情報は、すべての人が分かり易く目にできる様に提供して欲しい |
| 市民全体に知ってもらうようなアピールが大切だと思う |
| 本来なら、昔からそうであったように、女性は家庭を守り、子どもを育てるというのが、体の構造からいってもあるべき姿だと思います。しかし、近年、共働きでないと満足のいく生活を送れなくなっているのも現実だと思います。女性が男性社会に進出した結果うまれる「差別」には反対ですが、他所で行われている極端な「性差」さえも否定してしまう、「男女全てが平等」という考えは間違っていると思います。是非、全国のお手本となるように慎重に進めてください。 |
| 男女共同参画の意図がわからない<br>そのような事に力を入れることより、住民税の値上げや合併によって集団検診に行けなくなった事の方が、よっぽど深刻で、何とかして欲しい |
| 女性が子育てをしながら仕事をするには、お金の問題もあるが、保育園に入園できない、子どもが病気のときなど、女性が子どもの面倒を見なくてはいけない環境にあること。<br>どうしても仕事をしている女性の負担が大きい |
| 共同参画も大事なことだと思いますが、市として他に力を入れなければいけない事が他にもっとあるはずでは…<br>本質的な男女の違いを考慮しない参画などあり得ません |
| 職場での待遇（給与等）は、女性にとって不利な条件となっていると思う。<br>扶養控除がなけなれば、女性も働くようになるのでは。 |
| 職場では前進しているようですが、なぜ家庭内のことまで行政が入るのですか、今、経済的理由から結婚しない人が多くみられますが、男女ともが何でも出来るようになれば、結婚も面倒と思う人も多くなると思う、そうなると、ますます少子化が進むと思う。 |
| 私個人としては、男女共同参画に賛成ではない。理想は、「夫は外で働き、妻は家庭を守る」というのが好ましいが、現実は、それでは生活ができない社会に問題があると思う。私は、女性が社会に出るようになって、子どもの非行、いじめなどが増えてきたと思う。子どもに目を向ける時間が少なくなっている。<br>男女共同参画よりも、子どもの教育の方がこれからは大事だ、昔みたいに、先生が一目置かれている様な世の中を作らないと駄目だと思う。ますます、駄目子ども、駄目親が増えてくる。教育とは勉強ではなく、人間教育である。 |

| |
|---|
| 男女平等を推し進める世の中とは言え、将来を担う子を産むのは女性であり、仕事をする女性にとってはリスクもあります。ファミリーサポート等、大変便利な制度も出来て、仕事に専念し易い状況が整いつつありますが、やはり、子どもは、母、父の愛情を大変必要としていると思います。他人に頼むのではなく、リスクを負わずに家庭を両立できる世になればいいと、私は思っています。 |
| 地域や職場での女性の地位は全く低いと言わざるを得ません。職場では昇給や昇格、役職への登用などは、ほとんど改善されていない。政治や行政の場でも、女性の登用は少ない。会津若松市も市長や市の三役等に起用されるようになれば、女性の地位や活動も活発になるのではないでしょうか。<br>市でも、市政への参画、あるいは企業への要請等積極的に展開して欲しい。 |
| 市民には、まだまだその考え方は浸透されていない。特に年配の方たちにおいては、そのことを強く感じる。そのため、ホームページなどのみでは、年配の方へ伝わるのは難しいと思われる。何十年もそういう考え方のもと生きてきた方々には、なかなか、男女平等を理解していただくには困難なことであると思う |
| 社会を構成していく一員として、対等な立場で参画し、いろいろな問題に対応し、施策を打ち出さなければならないような気がします。事実私は、このアンケート調査の用紙が手元に届くまでは、あまり関心がありませんでしたが、男女共同参画の重要性が少し理解できました。 |
| 会社の管理職の教育をして欲しい |
| 市が開催している「男女共同参画」の講座に時間を見つけて参加したい |
| やはり、いろいろな媒体を使って啓発、広報を継続していくことに意義があると思います |
| もっと、子育て中の女性に対して職場での対応をよくして欲しい。子育てをしながらの仕事は想像をもつかないほど大変だ。働きやすい場所、時間など、もっと選べれば女性のストレスをためずに仕事と家庭を両立できると思う。 |
| ホームページを利用できる人たちが限られているので、市政だよりなどでお知らせしてみてはいかがでしょうか |
| 市がどうこうではなく、やはり、社会として企業がもっと力を入れるべき、そのような会社に働きたい。無理なく、日本特有の後ろめたさを感じることなく、男女共同参画ができるような環境づくりが重要だと思う。 |
| 基本的に男性は働き、女性は家庭を守るべきだと考えています。なぜ、共働きが多くなったかの理由は、生活が苦しいという理由が多いと思います。そうであれば、男性の給与をあげるか、男性のパート採用も行っていくべきではないかと考えます。将来日本を背負う子どもを中心に、話をまとめていくことを願います。 |
| 私は、市内の企業で働いていないので市内の現状は分からないが、東京では会社全体で考え、ずい分前から取り組んでいるようです。大学でも、男女間の問題に対する授業やイベントがあり多くの学生が受講していました。就職先の職場では、女性の役職者や育児休暇を利用している男性社員もいます。男女の格差はあまり感じないので、「男だから」「女だから」という考え方は薄れているように思います。<br>アンケートですが、回答しなければならない事柄の範囲が広いので、全てを関連付けて考えるのが難しいと感じました。「職場」「家庭」「ＤＶ･セクハラ」と三つに分けて調査を行った方が良かったのではないでしょうか。性別や年齢、日常の過ごし方でそれぞれ情報収集の方法は違ってくるので、具体的な調査から得られる情報をもとに、各世代に合った効果的な宣伝媒体を検討した方が良いと思います。 |

| |
|---|
| 男女共同参画という言葉が私の耳に入ってきていません、認知度も低いと思いますので、ＴＶや新聞などで周知すべきである。 |
| 男女共同参画は非常に大切なことなので、推進していただき全国での見本になれるような会津若松市にしてください |
| 女性が、母性を保護された上で、経済力を持つ仕事を継続できないと、言葉だけの「男女平等」になると思う。<br>例えば、市としては職員の採用を男女同数にすることが、まず第一歩だと思う。 |
| 広報等は、カタカナ文字を少なくし、日本語で対応して欲しい |